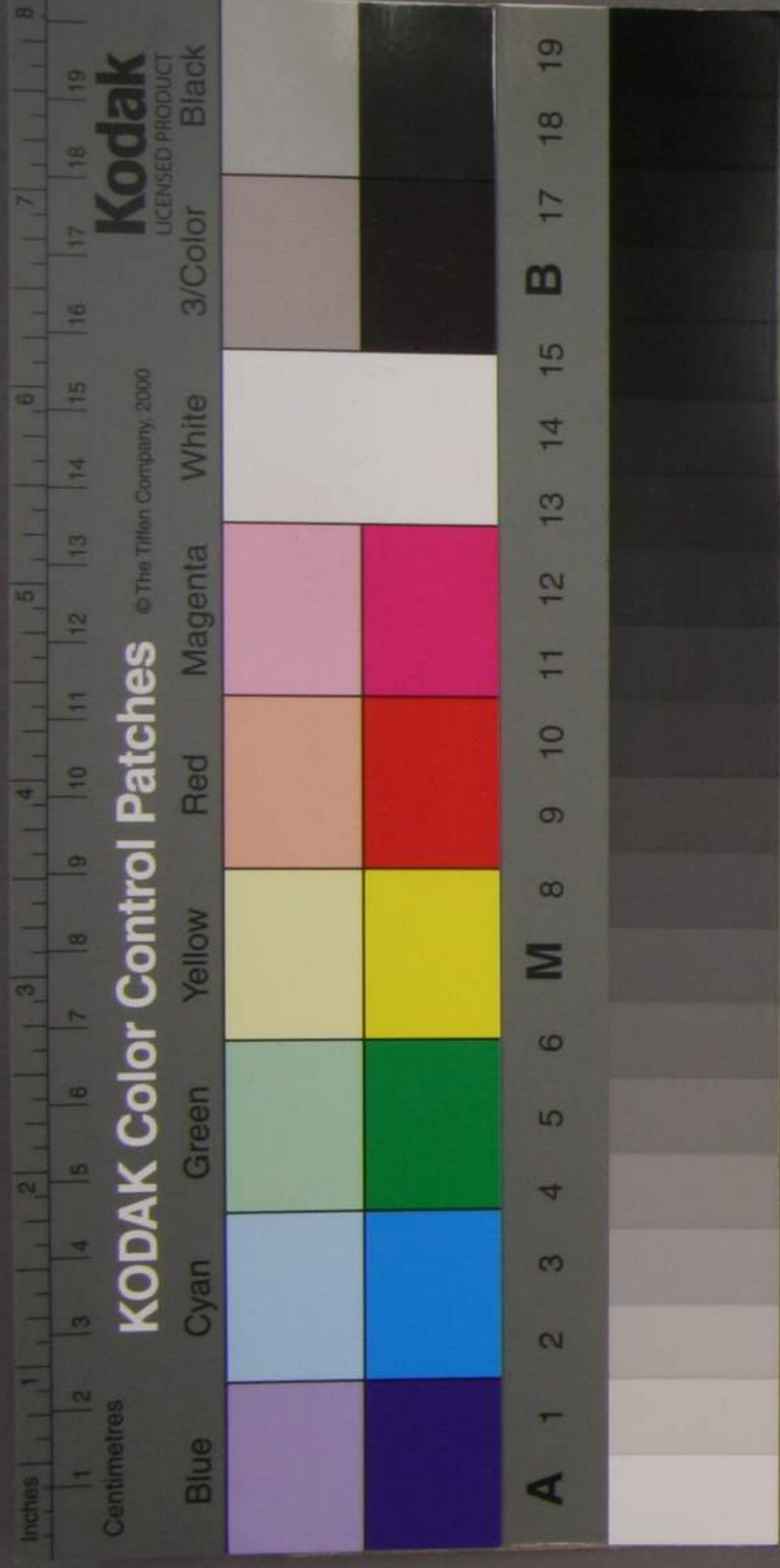




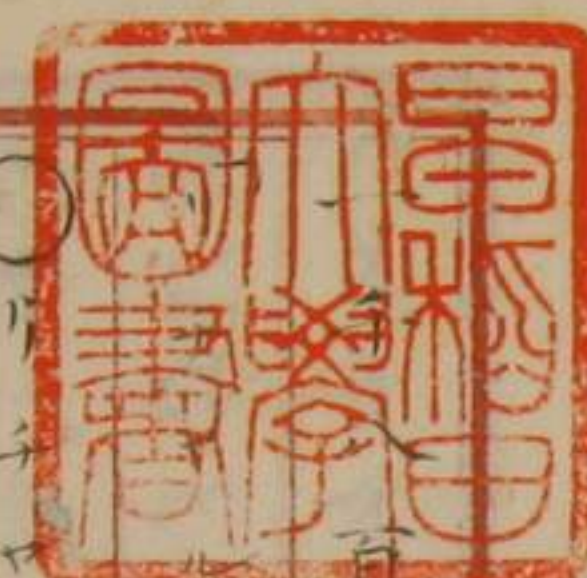
米國貨幣論

卷之三

大藏省
翻譯課



大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈



百六十九年十月九日土曜日

トソン「エルドリツ」ノ函氏來ル

○トソン「エルドリツ」曰ク 余ハ去ル土曜日止ムヲ得サル商用ノ
為メニ夕陽マテ商館ニ止シラレ足下ト會談ノ約ヲ果スヲ得
ス甚タ遺憾ナリキ

○グルーム曰ク 貴下何ソ辨解ヲ費ヤスヲ須ヒニ貴下ハ孜々
トシテ貴下ノ商業ヲ勉メヨ方今ノ如キ世態ニ在リテハ各々皆
ナ其職業上ニ付キ極メテ敏捷ニ心ヲ用ヒ注意ノ上ニモ猶ホ注
意セザルヘカラサルナリ

○リキヤルドソン曰ク 儲テ今日ノ論談ニ於テ余先ツ其端緒
ヲ問カン過日余カ足下ノ諭示ニ從ヒ余輩所有ノ蒸氣機關ヲ熟
見シ穩行球動運ノ理ヲ探究セシガ為メ「ブルークリ」ノ製
造所ニ到リシヲ話説セン余ハ該製造所ニ於テ機關方「エルト

リッヂ氏ニ對シ足下ガ此事件ニ付キテ聞陳セシ所ノ説ヲ告ゲ
且ツ貴社「デユールナル」新聞紙中ニ就キ足下ガ吾ガ國理財ノ方
法ニ付キ其持論ヲ解明スル手立ノ為メニ蒸氣機關ヲ引用シテ
譬喩トナセシ所ノ一段ヲ讀ミ聞カシメタリ然ル虎同氏ハ是非
今日ノ會ニ余ト同伴シ來ランコトヲ要セシ程甚ク此事件ニ付キ
關係ヲ有セリ

○グルーム曰ク 余ハ圖ラスメ今日「エルドリツヂ」氏ニ面會ス
ルハ實ニ喜悅ニ堪ヘサルナリ余ハ氏ノ輔祐ヲ得テ此事件ニ付
解明ヲナシ貴下ヲシテ余輩ガ教示セント欲スル所ノ事理ヲ十
分ニ會得セシメンコトヲ希望ス

○エルドリツヂ曰ク 足下ガ公債證書ト紙幣トノ相互交換ノ
コトニ於ケル持論ヲ解明センカ為メニ蒸氣機關ヲ引用スルモノ
ハ實ニ余ヲシテ欣喜止マガラシム余ヤ蒸氣機關ノ學術ヲ講習

スル當ニ數年ノミナラザルガ故ニ其胸臆中蓄フル所隨分蒸氣
機關ヲ引用シテ譬喩トセル足下ノ論說ヲ品評スルニ餘リアリ
ト余ハ自信セリ惜テ足下ニ對シテ斯ク言フハ氣ノ毒ナレバ其
身機械方ノ職ニ居ルモノスラ尚ホ十分ニ穩行球運動ノ理ヲ了
解シ得ルモノハ恐ラクハ百人中總カニ八九ニ過キサルヘシ
○グルーム曰ク エルドリツヂ氏ヨ余ハ請フ貴下ガ「リチャル
トソン」氏ニ向テ余ガ假定スル所ノ論旨ノ正理ニ適マルヲ証明
センコトヲ而メ其論旨トハ何ソヤ則チ政府ヨリ發行スル所ノ紙
幣ヲシテ持主ノ所好ニ從ヒ定利付キ合衆國公債證書ト相互交
換スルヲ得セシムルハ紙幣ノ價格自ラ確定シテ富ヲ全國ニ
播布スルノ良具タルニ至リ且ツ斯ル紙幣ガ理財及ヒ貿易ノ運
動ヲ規則立ツルノ有様ハ恰モ彼ノ蒸氣機關ノ運轉ガ其穩行球
ニヨリテ支配セラル、ガ如クナルベシトノ説是ナリ

○エルトドリツヂ曰ク 余ハ既ニ足下ガ新聞紙ヲ以テ公告スル
所ノ論旨ヲ了解シ且ツ之ヲ認許スト自信スレモ如何トモシ難
シ余ハ未タ之ヲ他人ニ向ツテ証明シ得ル程十分ニ會得スルニ
至ラサルヲ

○グルーム曰ク 諸テリチャルドソン氏ヨ貴下ハ蒸氣機關ノ
運轉ヲ探究セシ所ノ結果蒸ニ穩行球ガ其運轉ヲ支配スル所ノ
理ニ付テ今日何ナル報道ヲ為サントスルヤ

○リチャルドソン曰ク 足下ノ譬喻ハ甚タ好シ而シテ紙幣ノ如
キ活潑ナル働き有スルモノニ此ノ譬喻ヲ用ユルハ頗ル妙案
ナルカ如シ然リト雖モ又篤ト考察セサルベカラサル所アリ丁
度足下ニ穩行球ヲ取テ相互交換ニ譬喻シ明示スルガ如ク余モ
亦蒸氣ナル動力ヲ取テ實際ニ紙幣ヲ動かス所ノ一般人民ノ信
憑ニ譬喻スルヲ得ヘシ諸テ此ニ十分ノ蒸氣アリテ機關ヲ運

動セシムルニアサレハ穩行球モ何ノ働きヲカ為サン故ニ政
府發行ノ紙幣上ニ十分ノ信憑ヲ得且ツ常ニ其價格上變動浮沈
ナカラジムルニ非サレハ如何ナル相互交換ノ規則即チ穩行球
アルモ豈ニ能ク紙幣ノ浮動ヲ重實定止セシムルヲ得ンヤ然
リ而シテ若シ唯此相互交換ノ規則ノミヲ以テ信憑ヲ買フニ足レ
リトナサハ一事ノ以テ之ヲ駁スルニ足ルベキモ一モ商
賣上ニ於ケル紙幣ノ需要供給ニヨリテ支配セラルハニアラス
シテ戰爭若シハ内乱ノ如キ純乎タル國事ニ為シテ政府發行
ノ無期紙幣上ノミナラス公債証書上ニモ亦常ニ其價格ノ搖動
下落ヲ導キ到底之ヲ濟フノ方術ナキニ困却スルニ至ルノ事情
是レナリ若シ此事ヲ以テ然ラストナサバ則チ總ニ過去ノ經驗
ヲ虚トシ歴史ヲ偽トスルナリ此理由ナルガ故ニ足下ノ譬喻ヲ
用ヒントスルトキハ恰モ運動力ノ欠ケタル穩行球ヲシテ蒸氣

機關ノ運轉ヲ規則立テシメシト欲スルノミナラズ又々隨テ之ニ動力及ヒ速力ヲ與ヘントスルカ如シト云フヘシ

且又々何種ノモノ

家屋土地製造所ノ類ヲ指ス

問ハス其價格ハ總テ其モノ

ヨリ年々産出スル所ノ多寡ニヨリテ定メラル是ヲ以テ公債證

書ノ利息ヲ高低セシムルニ因テ政府發行ノ紙幣ノ價格ヲ規則

立テ以テ十全ナル價格ノ尺度トナス所ノ足下ノ説ニ對シテハ

余ハ一モ咏ヲ容ルベキ所ナシ然リト雖モ爰ニ數條ノ疑問ヲ起

サ、ルヲ得ザルヲアリ如何シテ足下ハ常ニ如何程マテニ利息

ヲ高低セシメテ可ナルヲ知り得ルカ而シテ又何ニ由リテ足下ハ

紙幣ノ位ヲ計リ定メ得ルヤ抑々紙幣ノ價格ハ何ニ依テ定マル

ヤヲ問フニ今日ノ金ニ於ケルガ如ク其後楯即チ本位貨幣ノ力

アルニ藉ルナリ故ニ若シ之ヲ廢セハ紙幣ハ其成立ノ元素ナル

翻タル紙幣ニ復センノミ是レ則チ論理上ノ極點ニシテ愛國

者タルモノ、決シテ否ラズトセサル所ナク

○グルーム曰ク足下ハ政府ノ信憑ニ付テ反覆重言余ヲシテ

殆ト倦函ニ堪ヘザラシム余ハ何故ニ足下ガ斯ク無味嚼蠟ニシ

テ且ツ國家ノ為メニ忠愛心ナキ想像ヲ長談スルヤ其意ノ在ル

所更ラニ了解シ難シ此事件ニ付テハ余ハ前日既ニ余カ意見ヲ

足下ニ示シタルニアラズ且余ハ傲然以テ言ハントス余ハ此

ノ至公至平ナル共和政治國ノ一人民ナレハ此國ノ利益ハ則チ

余カ頭上ノ利益ナルヲ政府カ其貨幣上ノ義務ヲ遂ケ得ルノ

力ニ付テ信憑ヲ置カサルハ即チ是レ國家ノ為メニ忠愛心ナキ

ナリ然レハ貴下カ政府ノ信憑ノヲニ付テ今現ニ論スル所ノ主

義ニ墨守スルハ取モ直サス是レ道德上ノ罪科ナラスヤ

○リチヤルドソン曰ク足下ハ余ガ疑問ニ答フルヲ為サズシ

テ愛國論其志ニ於テハ尤ム可ラサル所ノニ退縮セルモノ、如

シ然レ其論タル未タ余ヲシテ足下、國內通用紙幣説ニ同意
セシムルニ足ラス余輩ハ確乎タル通用貨幣ヲ要フ故ニ通用貨
幣基礎ノ為メニハ則チ金ノ如キ價格ノ本位ニ變動ナキモノ
ヲ以テセサル可カラスト固信スルナリ

○グルーム曰ク 貴下ハ金ヲ以テ價格ニ變動ナキモノトナス
ヤ其見ル所大ニ誤マレリ是レ恐ラクハ獨リ貴下ノ憶説ニ過キ
サルベシ我輩ノ貨幣制案第三條ニ於テ我輩説述シテ曰ク「凡ソ
萬物(金銀ヲ除カズ)ノ價格ハ一ニ固定シテ變セサルモノニ非ス
シテ常ニ變化シテ定マラサルモノナリ總テ價格ハ常ニ比例ノ
法ニヨリテノミ豫定サル、ガ故ニ必ス甚クシキ不定ノ情狀ア
ルヲ免カシ難シ是ニ由テ觀ルハ總テ價格ハ到底不定ノ性質
ヲ具フルニ外ナラサルナリ」ト是ヲ以テ我輩ハ全國人民ヲシテ
決シテ此世界ニ十全ノ價格ヲ具フル品物ヲ保有セル人民ノア

ヲガルコヲ知ラシメンコヲ要ス然レ其我輩カ主張スル所ノ法
方ニ據ツテ發行スル國內通用紙幣ニ至リテハ之ヲ金及銀ニ
比スレハ幾層カ十全ノ貨幣タルニ底幾カラントス貴下ノ如キ
ハ貨幣トシテ金ヲ使用センコトニ付法外ノ想像ヲ有シ且ツ之ヲ
以テ最上至極ノ良法ト考定スルモノ、如シ故ニ余ハ貴下ノ迷
夢ヲ覺サンカ為メニ十月一日發兌ノ「カリフォルニア」州「サンフ
ランシスコ」日々新聞ニ就キ同州理財ノ情況ニ關スル報告中ノ
一章ヲ讀ミ聞セン蓋シ同州ニ於テハ「キリー」ベツキ「綠裏紙幣」
ヲ以テ貨幣ト認メズシテ足下カ固守スル如ク獨リ金貨ノミヲ
合法貨幣トシテ使用セリ

十月一日發兌ノ「カリフォルニア」州「サンフランシスコ」日々新聞
ニ掲ケタル文ニ曰ク

現今ノ如キ貨幣上非常ノ形情「カリフォルニア」州ノ歴史上未

メ曾テ觀サル所ノヲ現出ルニ際シテハ人民ハ州々一般、
公益ヲ謀ランガ為メニ公會ヲ開設シテ其方法ヲ議セサル可
カラス。○儲テ吾カカリフオルニヤ州中數百ノ豪富家恰モ一
髮千鈞ヲ挽クカ如キ危殆ノ有様ヲ察スルニ敢テ其所有ノ富
ハ尋常安寧ノ日ニ比較シテ幾何カラ減殺セシト云フニ非ラ
サレモ其因テ以テ交易上ノ媒介トナス所モノヲ有セサル
ニ至リシ所以ノ事實ヲ我輩ハ徒ラニ包藏シテ不言ニ置クハ
無益ナリト思考スルガ故ニ之ヲ爰ニ陳述セン當州ノ繁昌今
日ノ如キハ實ニ未タ曾テアラサリキ然シテ州民ノ憂苦今日
ノ如ク甚タシキモ亦前古未タ曾テアラサル所ナリ現今ノ如
キ奇怪且ツ慘怛タル有様連綿トシテ今日ヨリ六十日ニ及ボ
スハハ吾ガ州ノ商賈ニシテ其家産ノ大ナルヲ其負債ノ高ニ
比スレハ十倍ノモノト雖モ若シ速カニ此困難ヲ避クルノ道

索ムルニアラサレハ大槩子破産ニ至ルベキヤ必然ナリ我
輩ハ静心堪忍シテ過ルニヶ月間此禍ノ下低ニ沈ミテ今日ノ
情形ヲ監視シ遂ニ我輩ヲ得タル探偵ノ結果トシテ更ニ此ニ
貨幣上ニ墮落シ來リシ所ノ非常ノ困難ニハ決シテ一ノ確實
ニシテ且ツ正當ナル原因アルニ非サルヲ明言センノミ我
輩ハ此困難ノ由テ來ル所ノ原因ハ敢テ徒黨ニ在リト云フニ
ハアラス然レモ何人ニテモ之ヲ探究シ得ルハ其禍源ハ決
シテ壅塞スルヲ得サルニアラサルヲ發見スルニ至ルベシ
此困厄ニ衆シテ何人カ營利ヲ謀ルモノアルカ又タ此困厄ノ
日ニ際シテ營利ヲ謀ルモノハ如何ナル等輩ニ在ルカ是等ノ
疑問ニ答ヘント欲シ張テ熟視セハ輒テ未タ曾テ知り得
ザリシ所ノ此困難ノ原因ヲ發見スルノ端緒ヲ得クニ至ルニ
シ然リト雖モ前日ニ溯リ此ノ原因ヲ探究センノ到底無

益ノ事業ニ属スベケレバ、軍今日ノ現状ニ付テモ、ル所
アラサルベカラス。諸テ州民一般ノ安寧ヲ謀ラシカ為メニ區
處スルノ任理財ニ干預スル所ノ人ニ歸セシテ何人ニ歸セ
シ果シテ然ラハ何故ニ銀行者等ハ商人等ト會議ヲ開キ此困
難ヲ濟フノ策ヲ企テサルヤ又何故ニ州民ハ相會シテ以テ今
日ノ如ク各自ノ頭上ニ困難ノ墮落シ來ル時ニ方リ苛刺ナル
収租ニ對シテ抗禦ヲナサルヤ有ヨ現ニ「シナ」テレデユリ
合衆國大藏省ノ分局ニノ庫内ニハ一百三十萬弗ヲ貯蓄セ
リ斯ル金額ヲ一般ノ流通上ヨリ引上ケシ權謀ニ付テ注意ス
ルハ則チ是レ貿易ノ脈管ヨリ貨幣ノ刺絡ヲ行ツカ為メ交
易ヲ死致サントスルナルヤ昭々タリ一人ニモ租稅ヲ納メ
サラシメヨ我輩ハ斯ク言ヘル敢テ「シナ」テレデユリ即チ
當州租稅局カ詐術ヲ行フト主張スルニハ非ス然リト雖モ今

日ノ如キ時ニ在リテ納租ヲ人民ニ責ムハ豈啻ニ人民ヲ蔑
視スルノミナラシ稱シテ非道苛刺ト云ハサルヲ得シヤ今日
ノ如キハ收租官其收租ヲ見合セガル可カラザルノ時ナリ若
シ之ニ加フルニ又タ他ノ困難ヲ以テスルヲアラハ産ヲ破ル
モノ陸續シテ踵ヲ接クニ至ルヤ必然ナリ故ニ政府ノ官吏ハ
斯ル困難ノ際ニ於テハ寛大ノ處置ヲ行ナハサルベカラズ然
ルハ人民モ亦自カラ之ニ倣ヒ施ヒテ相互ノ取引上ニ及ボ
スニ至ルベシ今日ノ如キハ僅カニ一介ノ肉スラ妄リニ收取
スベキノ秋ニテラザルナリ若シ人民相互ノ間ニ於テ債主ノ
負債者ヲ責ムルヲ急ナラハ商人中十ノ九ハ三十日ナラズシ
テ破産スルニ至ルベシ實ニ斯ル大困難ノ日ニ遭遇シテハ恒
常ノ思慮即チ正理ヲ重ニスルガ如キ思想ハ地ニ掃ツテナキ
ニ至ルナリ

信テ余ハ「カリフォルニア」州ノ不幸ノ形情金貨ヲ是ニスル妄
想ノ為メニ來タス所ナルヲ深ニ探究セント欲スルニアラハ
然リト雖モ余ハ敢テ殊ニ貴下カ現今「カリフォルニア」州ノ理財
困難ノ有様ニ付キ余ノ前段ニ陳ベタル一章ヲ玩味シタル後ニ
テ貴下カ本年六月四日發兌ノ「カリフォルニア」州「サンフランシ
スコ」コムノルシマル、エント、マーケツト、レウニユー「新聞社」ガ紙
幣説ヲ主張スル論者ニ對シテ駁撃ヲ試ミシ妄説ニ付キ更ニ熟
思ヲ須ヒン「ラ」請ハントス其紙幣説ヲ駁撃セシ文ニ曰ク
正金ヲ捨テ、之ニ代フルニ紙幣ヲ以テセン「ラ」主張スル所
ノ論者、真意ノ在ル所ヲ理會セン「ラ」頗ル難シ此輩ノ如キ
ハ物ノ本體ヲ捨テ、其影ヲ捉ラントシ到底理財ノ活動ヲシ
テ自ラ滅没ニ至ラシメントスル淺略短謀ノ人物タラザルヲ
待「ラ」自他諸州ノ如キハ大槩貨幣上ノ惡弊ノ為メニ時々悩

ムサル、コアルモ獨リ「カリフォルニア」州ニ至リテハ然ラズ
其貨幣ノ制度堅牢不撓ナル事恰モ冠簪ヲ防クノ堅砦如ク
大洪水ニ凌クニ足リシ「アー」大洪水ノ時神助ニ依テ一ノ如
家族此難ヲ避ケタル小舟ノ如
シ是ヲ以テ東方諸府ニ於テ諸銀行及ヒ商舖等ヲ破産ニ至ラ
シメシ所ノ苦厄ヲ免カル、ヲ得タリ
余ヲシテ今又「ユー」オルレンス、コムノルシマル、ブルレネ
新聞紙中ヨリ一篇ヲ採テ之ヲ讀マシメ貴下姑ラク傾聴セヨ此
ノ有力卓絶ナル新聞記者ハ近頃我輩ノ説ニ服從セシ所ノ人ナ
リ此一篇ハ果シテ貴下ノ為メニ貨幣論ニ付テ明亮ヲ與フル所
アラシ然ル上ニテ直ニ余ハ復ク貴下ノ疑問ニ答應スル道ニ
回ラントス其文ニ曰ク

貨幣基礎論

貨幣ノ基礎トナスヘシ「ハ」津鍊ナルヲ將ク金塊ナル

カラ論ス

余輩ハ希望ス「スチッキンツエ」泥中ノ木ツト片ノ義
イヤスドスト輕塵ノ義以上ニ語人ヲ嘲罵シテ盡カケル地獄ト
類予ノノ類族中ノ人々徒ラニ舊慣ヲ株守シテ之ヲ忘レズ又
新シキヲ學テ進ムヲ勉メサルヲ以テ世人之ヲ呼ビ「オールド
フオギー」守舊頑トナス所ノ類族ノ人ヲ云フハ我輩カ今將サ
ニ説キ進マントスル所ノ論説ヲ聞キ憂苦煩悶スル程ニ驚愕
セザランコトヲ故ニ我輩ハ敢テ此輩ノ感覺ニ遲鈍ナル神經ヲ
刺撃セザルベシ何トナレハ此輩ハ頑固偏見ニシテ論理學ト
想像力トニ乏シキカ為メ愈々頑固陋ニ陥ルヲ以テ到底
何程口角ヲ酸ニシ舌本ヲ乾カシ説キ論スモ我輩ハ其頑固偏
見ヲ破ルヘカラサルヲ知レハナリ此輩ノ如キハ頑固偏見ヲ
以テ其生涯ヲ終ルベキノミ故ニ此等ノ類族中ニシテ我カ言

ハントスル所ノ言ヲ傍聴スル人ハ宜シク夫ノ感觸ニ鋭敏ナ
ル婦女子ガ觀戲ノ際俳優ガ勇士若シクハ強賊ノ「ピス」ル或
「ライ」ルヲ手ニセル猛獍畏ルベキ有様ニ打扮シ傲然舞臺
ニ跋扈蹶跳スルヲ觀テ絹帕ト羊皮ノ手套ヲ以テ其両耳ヲ掩
ビ聞カサルヲナスノ為ニ倣フ可シトス

我輩ハ我輩ノ説ヲ陳フルニ當リ其道理ヲ太タ平直坦易ニ述
ヘ立ツルヲ欲セサルガ故ニ疑問ノ鉢ヲ以テセント欲スルナ
リ
事物ノ道理上且ツ商賣上ノ規定ヨリシテ之ヲ觀レハ貨幣ノ
制度ニ於テ其基礎トナスニ專ラ金貨ヲ以テスルト棹鍔錫塊
漆詰ノノ棉花袋入ノ小麥桶入ノ麥粉桶入ノ「ホウキ」スキ酒
絹布麻布毛布綿布箱詰ノ乾鰯乾入ノ酢漬鯖若シクハ金剛石
「ビー」石、カル子ツツ石立ノ「ラル」石、パール、眞珠、珊

湖等ノ類其形体ノ如何ヲ問ス之略言セバ食物飲料衣服
必用物貴重物等渾テ此世現在ノ物品中ノ一ヲ巴テスルトヲ
比較シ何故ニ甲金貨乙棹鍬以下ノ諸物ニ勝ルト云フノ理
由アルヤ

此疑問ニ付キ予思萬考其原理ヲ索ノントスルハ省者ハ之
ガ為メニ更ニ他ノ疑問ヲ想出シ來ルノ益ヲ得ルニ至ルヘシ
爰ニ若シ綿花ノ代價ヲ定ムルニ方リ棹鍬内國製造ト外國輸
入トニ係ルトヲ問ハス或ハ内外ノ貿易上ニ於テ著シク多量
ナル供給ノ自餘產物ヲ以テスルハ我ガ合衆國ノ棉花貿易
ハ果シテ何等ノ景情ヲ現出スベキヤ此時ニ於テ棉花產者中
棹鍬ヲ要スルモノアリテ其收穫セシ棉花ノ價金額中ノ若干
部分ヲ以テ其要スル丈ケハ棹鍬ヲ買ハンコトヲ満足ス然ルニ
若シ棉花產者ハ盡ク是非トモ其棉花ヲ以テ棹鍬又ハ棹鍬ノ

リシヤヲ尋メルニ金ノ價格ハ百三十二乃至百三十三ヨリ
俄カニ百六十マデモ翔騰セシカ故ニ紙幣ノ價格ハ其割合ヲ
以テ下シセシニ由ルナリ儲テ貿易ノ通義ヨリ之ヲ勘考スレ
ハ實ニ戰時金相場ニ烈シキ騰貴アリシト雖モ其間ニ紙幣ノ
凡百商賣上ノ物產ニ於ケル價格ハ確固不變ナリナリ而シテ
此ノ確固不變ナル所以ノモノハ何リヤ曰ク紙幣カ真實ノ價
格ヲ代理シ真實ノ價格モテ人民ニ取引ヲ命スルノ間ハ則テ
金貨ガ占ノ得ルヨリモ一層廣大ナル基礎ヲ占ノ得ルガ故ナ
リ是レ此紙幣ノ合衆國信憑ノ記號トシテ取引サレ而シテ此ノ
信憑即チ紙幣ノ通用價格ハ帝ニ實價アル萬種ノ物品ニ關係
アルノミナラス吾ガ合衆國富榮ノ基ト生産力トニ一大關係
ノ有スル所以ナリ

○リチャードソン曰ク余ハ今ヲ足下ガ讀ミ聞カセタル最後

一篇、唯之ヲ卓論ナリトシ其論旨ハ足下ガ兼テ余ニ説明
シ來リシ所ノ意見ニ全ク符合ス云ハシノミ然リ而シ其論理
ハ甚タ卓絶ナリト雖モ余思フ一クモ余ガ駁撃ヲ試ミナハ之
ヲ破ルヲ甚タ易クナラント足下ハ足下ガ朗讀シタル「サン
フ」ニシスコヘラ「新聞」ノ論說ニ付テ如何ナル思想ヲ下
スヤ足下ハ彼ノ新聞紙ノ論說ハ盡ク眞實ナリト思惟スルヤ

○グルーム曰ク然リ余ガ誦讀シタル「サンフ」ニシスコヘラ
「新聞」ノ論說ハ所ノ現狀ハ悉ク皆眞實ナラサルハナシ素ヨ
リ既往ノ來歴ニ徴シテ之ヲ後來ニ必トシ豫メ期ス可カラザル
ハ論ヲ俟ス余ハ其論說タル唯「カリフォルニア」州ノ後來ニ期
スル所ノ困難ノ預想ナルヲ足下ノ為メニ証明センヲ希望ス
然リト雖モ記者ガ公衆ヲ欺ムカンガ為メニ此說ヲ作レト推
量スルノ道理ハ毫モ在ルヲナシ何トナレハ苟モ新聞記者ノ地

任、在テ公衆ヲ欺ムカント企ツルガ如キハ當ニ無益ナルノミ
ナラス自ラ縊レルノ理ナルベケレバナリ此ニ又テ故ヲ記セ
ザルヘカラサルヲアリ「カリフォルニア」州ノ如キ巨大ニ金ヲ産
スル地ニ於テハ特ニ取付騷動ノ困難ヲ醸成セシメンカ為メ財
主中徒黨ヲ結フガ如キヲアラサルモ斯ル成果ヲ發現スルニ相
違ナカルベキヲ則チ是レナリ余ハ數週前ニ於テ斯ル取付騷動
困難ナルモノハ吾合衆國人民中僅々數人ノ豪富ガ協心シテ之
ヲ發生セシメント欲セハ何時ニテモ之ヲ自由自在ニ發生セシ
ムルヲ得ル所以ヲ審サニ足下ニ説明セリ

○リチャルドソン曰ク足下ガ金ヲ以テ貨幣トナスノ論ヲ破
ランガ為メニ縷述スル所ノ論旨ハ頗ル卓絶ニシテ觀ルヘキモ
ノトス然レモ我輩ハ猶ホ金ニ勝テ物種ヲ發見シ得ルマデハ
是非トシテ之ヲ使用セザルヲ得ズ紙幣如キハ到底之ヲ貨幣ノ

基礎、ス可カラスト信スルナリ

○ゲルム曰ク、紙幣ヲ以テ到底通用貨幣、基礎トナスベカ
ラストノ説ヲ固守スルハ何ヨリ易キヲナレモ余ヲ以テ之ヲ觀
ルニ足下ハ此事件ニ付キテハ實際上何事ヲモ知ラサルナリ足
下ノ説ノ如キハ全ク推理ノ見ナルノミ足下ノ如キハ朦昧ニシ
テ崇金者徒ダ之ヲ追慕スル所ノ陋見ヲ固有スルト雖モ一ノ明
亮ナル道理ヲ舉示スルヲ得サル所ノ群中ノ一人ニ陥リシ
ナリ我輩ガ主張スル所ノ紙幣若シクハ之ニ類似ノモノ、如キ
ハ未タ曾テ發行サレシトハナカリシ然ルガ故ニ足下ノ唱フル
所ノ説ハ大概空論ノミニシテ我輩ガ主張セル金貨ニ關涉セザ
ル獨立不羈ナル國內通用紙幣ノ説ニ對シ實際ノ論ヲ以テスル
ト能ハス足下カ紙幣面ニ需求次第金ヲ以テ交換スヘキヲ表
スルモ其事タル實際行ナハレ難クシテ信ヲ置キ難シトノ論ハ

證書即チ無用物ニ交換セザルベカラサルヲ聞カハ此輩ノ
愕然失色ノ狀ハ如何計リナルベキカ此時コソ棉花產者百中
ノ九十九ハ我輩ハ敢テ之ヲ保證ス棹鋏ヲ買ハンガ為メ極メ
テ其賤價ノ機會ヲ得ルモノ莫ク常ニ唯市價相當ナル棹鋏ヲ
得ルノミニシテ決シテ綿花ニ付テ益スル所ナカルベシ勿論
棹鋏ノ相場ハ棉花ノ相場ヲ支配スルカ故ニ棉花相場ハ決シ
テ棹鋏ノ上ニ出ヅルカ如キ變化アラザルヘキナリ是ヲ以テ
棹鋏ヲ取扱フ所ノ人ハ自由自在ニ棉花產者ヲシテ其棉花ヲ
賣ラシムルヲ得ルガ故ニ此ノ寡頭政治ナル鐵取扱人ハ其
欲スル所ノ意ノ如ク棉花ノ代價愈々下落スレハ棹鋏ノ代價
ハ愈々騰貴スルニ至ルヘシ
然リト雖トモ余輩ヲシテ暫ク斯ル場合ニ當リキハ現今金
賄博者アル如クニ棹鋏ノ賭博者ナト思考セシ然ルニ實直

アル購求者及ヒ消費者ヲシテ棹鋏ヲ購求シ且、消費スルヲ得セシメザルノ徒黨ハ自カニアラサルベシナルハ現今政府ガ人民ニ對シテ信憑ヲ堅固ニセシガ為メ國內ニ存在セル金ノ過半ヲ引揚グルヲ以テ緊要ト考定セルガ如ク國內ニ存在セル棹鋏ノ大半ヲ引揚ケ無益ニ庫内ニ貯藏スルヲ以テ緊要ト為サバルニ至ルベシ是レ果シテ實際ニ行ナハルベキノコトニハアラサルヘケレモ暫ク之ヲ一論題トシテ存セヨ然リ而シテ此論題ヲシテ行ナハルベキモノトスルモ尚ホ棉花又ハ自餘物品ノ產出者ハ各々其產出物ヲ所有スルカ故ニ已ムヲ得スニシテ棹鋏ヲ基礎トセル貨幣制度ニ導ビ之ヲ棹鋏ニ換ヘ賣却ニシ貿易上之レヨリ更ニ甚シキ困難アラサルベシ而シテ若シ之ヲ忌マバ之ヲ賣却スルヲ得サルベシ是等ノ產出者ハ棹鋏相場昂低ノ模様現ハレントスルニ際シテハ或ハ喜ビ

或ハ恐レ毎ニ高枕安眠ノ遑マナカルヘシ此輩ハ其物品ノ當國及ヒ他萬國ニ於テ豐凶アルニ由リテ利ヲ得ルニ非ズシテ專ラ需要供給ノ多寡ヨリテ其價時々浮沈高低ヲ生スベキ一物品餘裕ト缺乏トニ由リテ偶然貧富ヲトスルニ至ルヘシ

若シ棹鋏ニ代テ金ヲ以テ基礎トナス所ノ貨幣制度アルカ為メニ貿易上必要欠クベカラサルモノトナラハ棹鋏ニ於ケルト如何ナル差違アルベキヤ今日ニ於テハ斯ル貨幣制度ヲ設立セン為メノ企テハ渾テ行ナハレサルヘシ所謂金貨基礎ハ常ニ其結局有名無實ナル一種ノ方便ヲシテ好ミスベク且ツ信用スベキモノトナスモ萬一外寇或ハ内訌等ノ國難發リ貨幣ノ需要最モ盛ナル際ニハ自ラ羽翼ヲ生シテ外國ニ飛去センノミ

此頃ハ以テ價ノ不動不變ナル最上物トナセル或ル此上モ
ナキ愚妄虚証ノ説ヲ新聞紙上掲ゲタルヲ省キ此論者ノ
説ニ曰ク相場師カ紙幣ヲ金ノ下ニ置クヲ得ベシ然リト雖
モ金ヲ紙幣ノ上ニ置クト云フハ理ニ背ケリト此言タル實ニ
惑ヘルノ甚タシキ妄想ニ過キザルナリ此記者ハ特ニ之ヲ區
別シテ論スレモ毫モ其間ニ差違ナキヲ如何セン金ト紙幣ト
ノ間ニ於テ其一ガ昂ルト云フモ他ガ下ルト云フモ單ニ言辭
ノ立テ方ニ違ヒコソアレ其實ニ至リテハ毫モ異ナル所ナシ
先キニ「ニユーロ」府下ニ暴發セシ取付騒動ノ為メニ生デ
シ金ト紙幣トノ間ノ相場違ハ幸ニシテ一般貿易上ノ物價ニ
慘然タル影響ヲ及ボサバリシナリ
當府下ノ物産商人ハ紙幣一弗以上ノ價ニテサヘ一少量ノ麥
粉タモ販賣セザリキ何故ニ一弗以上ノ高價ニテ之ヲ販賣セ

却テ我輩ノ持論ヲ裨補シテ愈々堅固ナラシメリ足下及ヒ商估
百人中ノ九十九人ハ必ス之ヲ斷言セン或ル紙幣ナクテ我カ
合衆國ノ貿易ハ決シテ行ハルヲ得スト

○リナヤクトソン曰ク然リ我カ合衆國ニ於テハ因テ以テ我
カ貿易ヲ運行スヘキ所ノ金ヲ十分ニ有セサルヲ足下ノ言フ
所ノ如シ然リト雖モ我輩ハ尚ホ我カ合衆國通用貨幣ノ基礎即
チ價格ノ尺度トシテ之ヲ用ユルヲ必須トナスナリ

○クルーム曰ク此事ニ付キ足下ガ固守スル所ノ主旨ハ最モ
愚妄ト云フヘシ足下ハ實ニ此物質金ノ我カ合衆國內ニ存在ス
ルモノハ其額不十分ニシテ因テ以テ一大廈ヲ結構シ即チ貿易
ヲ行ナフニ足ラサルト明言セリ然ルニ猶ホ之ヲ基本ノ一部分
即チ礎石トシテ用ヒ「フ」主張ナルガ如シ然レモ此基礎ノ如
キハ萬一合衆國ノ國債ヲ買フ「フ」アラハ忽チ土崩瓦解ニ至ルヘ

リシニ、危キモノナラズヤ足下ハ格段ナル一區ノ建物ヲ抵
當ニシ其承典者カ足下ノ有ニシテ最モ餘裕ナル所ノモノヲ領
收シテ石ノ建物受戻シ料ニ當テシテ希望ヲ抱クモノ、如シ
我輩ハ史上ニ於テ觀ル如ク斯ル仕法ヲ以テ債ヲ募ルハ萬事
都合好ク「マルリエー」ジ、ベル教會堂ニ於テ結婚ノ愉快ノ如クニ
行ナハルヘシ然ルニ或ル道理（通例惡意ニ出ササル）ノ為ニ貸
主（前題同様ナル礎石上ニ結構サレタル家屋ニ住スル所）ハ証
書ノ箇條ニ據テ償債ヲ求ムベシ此時ニ當リテヤ債主ハ証書面
ヨリモ二倍三倍又ハ十數倍ヲ償ナハルト雖モ尚ホ飽クナク
不知不識（暴行）ニ陥リ一片ノ肉マテモ強取セント欲シ竟ニ法網
ニ罹レニ迫ンテ始メテ自ラ此ニ至ルノ權理ナカリシヲ發明
スベシ然リト雖モ結局ニ至リテハ負債者モ債主モ兩ナガラ前
數代ヨリ法律ヲ以テ強テ人民ヲシテ一陣ノ風ノ為ニ吹倒セ

ラル、如キ危殆ナル金ノ基礎ノ上貿易ノ家屋ヲ建築セシメ此
ノ基礎ノ壞頽土崩ニ因テ其各自ノ富ヲ滅却スルニ至ル（余
ハ愚弄スルニハアラサンニ政府ハ譬ヘハ金卵ヲ生ム所ノ鷺鳥
ナル納租者ノ權理ヲ保護シ且ツ速クニ正シク國債ヲ償却セン
カ為メニ其要スル所ノ租稅ヲ異議ナク納租者ヲシテ納メシメ
得ル程ニ政府ハ此輩ニ至當ノ便利ヲ與ヘサルベカラサルヲ切
切ニ希望ス余ハ敢テ之ヲ前言セントス若シ是非トモ正金拂
恢復ヲ今後十二箇月中ニ行ナハサルヲ得ストセハ到底國債ヲ
廢棄スルノ外道ナカルヘシ此時ニ當テヤ地球上ノ如何ナル力
ヲ以テ之ヲ防カントスルモ得ベカラサルヘシト我カ合衆國ハ
其産業ニ注目シ之ヲ獎勵スルニアラズンハ我カ合衆國民ノ竟
ニ凍餓ノ厄ニ遭逢セラル得ザルノ事ハ「ソロモン」名ノ判斷ヲ
俟タステ明カナリ我輩ハ之ヲ知ル將サニ凍餓セントスル所

ノ人、決シテ外貌ニ意ヲ用フルモノナキヲ此輩ヲシテ事ノ是非得失ヲ考定セシメント欲スルモ竟ニ得ベカラサルナリ之

ハシタリ余カ論ハ稍々本旨ヲ離ル、モノ、如シ

○リチャルドソン曰ク余ハ請フ足下并ニ「エルドリツ」氏ガ蒸氣機關及ニ其附属機械ヲ以テ譬喩ノ適切ト思惟サル所ノ足下ノ發意ナル國內通用紙幣ノ勸ヲキニ付キ足下ガ今マ我輩ニ説明スル所アラントラ

○グルーム曰ク貴下ノ願望スル所ハ真ニ我カ心ニ適ヘリ然リト雖モ今日ハ已ニ時刻ニ迫リタレハ今ヨリ此緊要ナル説明ニ移ラン時已ニ晚シ因テハ若シ貴下ノ為メニ不都合ナケレハ我輩ハ此説論ヲ以テ次ノ土曜日初場ノ論談トナスヘシ

○リチャルドソン曰ク諾然ラハ足下ノ意ニ任セン「グルーム」氏

○グルーム曰クグード、アフトル、ヌーソン

一千八百六十九年十一月六日 土曜日

「リチャルドソン」アルドリツチ并ニ「ソーツウ井ツキ」ノ三氏来ル
○カルーハ曰ク「ソーツウ井ツキ」氏ヨ余ハ今日貴下ニ會スル
ヲ甚々満足トス何時貴下ハ當府ニ到着セラレシヤ

○ソーツウ井ツキ氏曰ク余ハ此度「アルバニー」ヨリ汽船ニ乗
シ又「ニューヨルクセンタラルレーロード」ノ汽車ニ駕シテ今
朝當府ニ着セリ

○リチャルドソン曰ク貴下等ノ談話ヲ妨礙スルタ如クナレ
氏余カ一言ヲ此ニ容ル、ヲ許セ余ハ請フ此等ノ平談雜話ハ報
告ヨリ除カントヲ想フニ是下ノ筆者ハ今現ニ貴下等ノ談話
ヲ盡ク筆セシナラン斯ル平談ヲ報告中ニ登載スルハ到底益ナ
クシテ却テ害アルヲ必然ナルベケレバ余ガ今續テ話セントス
ル我輩ガ前週「ウォールストリート」街ニ於テ出會ノ次談セシ

所ノ雜事ニ付テノ話説ノ如キモ亦登載セサランヲ欲ス

○グルーム曰ク 貴下ノ發意甚々好シ「グルー」ヨ余が更ニ命
カルマテハ筆ヲ擱テ談話ヲ報告中ニ記載スルヲ勿レ

○リッヅウ井ツキ曰ク 「リッナルド」氏ヨ我輩ハ平談雜話ノ
為メニ徒ラニ今午後半時間餘ノ光陰ヲ費消セリ我輩ハ寧早正
當議論ニ移ルヲ以テ然ルヘシト思惟ス貴意如何ソヤ

○リッナルドソン曰ク 諾余が意亦貴余ノ如クセンヲ欲ス
ルナリ

○グルーム曰ク 「グルー」氏ヨ今マヨリ更ニ我輩談論顛末ノ
筆記ヲ初メヨ諸君ヨ前會ノ報告ニ由ルハ余ハ今日談論
ノ初場ニ於テ我輩ハ我合衆國人民が往日ヨリ之ヲ有シテ世人
ノ普ネク知ル所ノ紙幣ナルモノハ寧上ノ通用貨幣タリハ確定
スト雖此紙幣ヲシテ尚ホ一層完全良好ノ通用貨幣タラシム

ヘシト主張シ合衆國財政ノ妙法トシテ發意シタル所ノ制按ニ
ニ付簡短ニ貴下等ニ説明センヲ約シタリキ抑モ現今ノ紙幣
ナルモノハ其性質ニ缺部アリト雖此之ヲ金及ヒ銀ニ比スレハ
猶ホ良好ノ通用貨幣タリト謂ハサルヲ得ス唯惜ムラクハ該紙
幣發行許准ノ法律ニ於テ始メヨリ之ヲ完全ナラサル「ドルラ」
トナシタリ何ヲ完全ナラスト云フ曰ク政府ニ於テ海關稅トシ
テ之ヲ收入セサルト我合衆國ノ五年ヨリ短ナラズ二十年ヨリ
長カラサル期限ノ公債証書ノ利息トシテ之ヲ拂渡サハルヲ是
レナリ加之紙幣發行條例ノ限外ニ紙幣ノ額ヲ増減スルカ為メ
ニ更ニ一箇條ヲ増設シ法律トナリ布告セラル、ヤ否ヤ直ニ取
消トナシタリ是等ノ「ハ實」ニ誤謬ノ甚タシキモノト云フベシ
然リト雖此既往ノ經驗ヲ以テ觀ルハ我輩が主張スル所ノ完
全無缺ノ實正ナル内國通用紙幣ニ付テハ一モ其非トスベキノ

徴証ヲ發見シ得ザルノミナラズ却テ是ハスベキ徴証ノ多キヲ
觀ノミナリ余ハ此ノ點ニ於テ貴下等ノ更ニ現今ノ大藏卿ナル
「ポートウエル」氏ガ合法通用紙幣條例第一節并ニ國立銀行條例
第二十三節ノ文ヲ明ラカニセザルノ奇々怪々ナル「ポートウエル」氏ガ是ノ法律ヲ遵奉セザル
意セン「ポートウエル」氏ガ是ノ法律ヲ遵奉セザル
「ハ大藏省」ノ為メニ数百万ノ價アリキ然シ此事ハ暫ク措キ
余ハ今ニ談論中ニ在ル所ノ格段ノ點ニ復セントス我輩以為ラ
ク金銀モ亦單ニ是レ一ノ商賣品タルニ過キサルノミ素ヨリ看
テ一種別物トナスベキノ理ナシ然ルガ故ニ合衆國政府ハ時期
ヲ限ラス場所ニ制限ナク公私ヲ論セズ百事ニ差支ナキ一般通
用紙幣ヲ發行セザルベカラス此ノ如クスルハ初テ完全ナ
ル合法通用紙幣タルナリ然リ而シテ其額ヲ増減シ且ツ之ヲ完全
ナル價格ノ本位尺度トナスカ為メニ此合法紙幣ヲシテ政府ノ

定利付公債証書ト相互交換セシメサルベカラス而テ

○「リチャルド」氏曰ク余ニ一二秒時ヲ假セ余ハ言ハシ今更ニ下
ノ言フ所ハ一ニ新説ナラスシテ即チ唯前日説ク所ノモノヲ復
演スルニ過ギサルナリト

○「ガルム」氏曰ク我輩ガ此談論ノ初發ヨリ説キ来ル所ノ總意
ハ余ガ數週前貴下ニ讀ミ聞カセ且ツ余カ其時ニ貴下ニ報セシ
如ク「通貨改正義會」ニ於テ協議ノ上「通貨改正義會」ノ主義公
告ト題セシ篇ノ數章中ニ於テ實ニ説キ尽クシテ餘蘊ナシ然ル
ガ故ニ目今開説スル所ノ此ノ論議ノ大眼目ハ（余ガ）解スル所
ニ據レハ唯事實ノ明亮ナル理會ヲ得シカ為メノミニ在リ貴下
知ラズヤ「線上ニ線ヲ引」念ノ上ニモ念ヲ入ル、コリ人ヲシテ理
會了得ニ至ラシムル方術ナルヲ況ンヤ又（余カ）記憶スル
所若シ甚クシキ差誤アルニアラズンハ貴下ハ故サテニ余ニ此

ノ大有要ノ論議ニ付キ我輩ノ目的トスル所ノ要旨ヲ簡短ニ再
説セシメ即チ此ノ議論ノ初發ヨリ以來余カ貴下等ト談論ノ
次或ハ支葉ニ涉リ支離滅裂説キ来リシ所ノ事ヲ再ニ略説セン
ヲヲ望ミシニ非スヤ

○リチャルドソレ曰ク 余過テリ余過テリ余ハ實ニ足下ニ然
カセンヲヲ願望セシメアリシ因テ請フ更ニ足下ノ此説明ニ前
進センヲ余ハ決シテ再ヒ足下ノ談線ヲ遮断セザルベシ且リ
獨リ余ノミナラズ「リッツ」ウヰツキ「ブルドリツ」ノ両氏ニモ乞
フテ是下カ此事ニ付キ其意見ヲ余輩ニ説キラル迄ハ如何ナル
疑問ヲモ其間ニ容レサラシムベシ

○ガルーム曰ク 然ラハ余ハ之ヲ甚タ簡略ニ説明スベシ然リ
ト雖モ余ハ此ノ説明ニ前進スルニ當リ先ツ余が過日會談ノ折
貴下ニ付与シ置キタル問題ノ條々ニ付テ貴下ノ答辨アラシ

ヲ希フナリ其貴下ニ付与シタル問題ハ左ノ如シ

若シ我輩一步ヲ譲リテ唯論題ヲ設為センカ為メニ(假令)利息
ノ割合如何程高キモ新タニ投機事業ヲ起サント欲スル所ノ人
ノ心中ニハ金圓ヲ借入レントスルノ情常ニ存スルモノトセハ
其狀況果シテ如何リヤ余ヲシテ爰ニ一々其條々ニ付キテ講究
セシメヨ

第一何故ニ持者ノ所願ニ任セ「ギリ」ンベツキ「紙幣」ヲ五年ヨ
リ短ナラズ二十年ヨリ長カラザル期限ノ公債証書ニ交換セ
ンヲヲ許セシ所ノ合法貨幣條例中ノ一章ヲ刪除セシヤ

第二何故ニ現今政府ノ三分利付證書ヲ所有セルモノハ直ニニ
償還アラシメテ請求セザルヤ

第三若シ政府ノ四分利付公債証書ヲシテ持者ノ所願ニ任セ通
用紙幣ト相互交換スルヲ得セシメハ(殊トニ商人ニ取リテ

ハ現今合衆國ノシキス、ベルセント、コルレンシー」六分利付公債ヨ
証書ノ名
リモ一層好良ナル保担ニアラズヤ

第四若シ一般人民ノ間ニ於テ頻リニ貨幣(即チ紙幣)ヲ要スルノ
心存スルトセハ何故ニ合衆國「シキス、ヘルセント、コルレンシー
ホレザ」ハ(殊トニ現今金融壅塞ノ際ニ於テ)ハ分乃至九分ノ
溢價ヲ以テ賣買ヲナスヤ

第五英國銀行ノ如キ著明ナル一大私立會社ハ其發行スル所
ノ銀行紙幣ノ基礎ハ想フニ金ナラン然ルニ其金輸出セラル
、ノ時ニ當リテハ何故ニ得意先キニ歩引貸ヲ為スニ其利息
割合ヲ騰貴セシメ他日輸出跡ヲ絶チ恒常ニ復スルニ至ル片
ハ再ヒ利息ノ割合ヲ低下セシムルヤ蓋シ斯ノ如ク利息ノ割
合ヲ高低セシムル所以ノモノハ獨リ貨幣ノ需要ヲ規則立テ
シカ為メニスルニアラズヤ余ハ思フ貴下ハ極メテ利息ノ割

合高低セシムル所以ノモノハ獨リ貨幣ノ需要ヲ規則立テシ
カ為メニスルナルヲ并ニ此權略ノ妙運ヲナスヲ及ヒ此施行ノ
結果ハ極メテ實地經驗上ニ於テ利息ノ割合ハ事業ヲ發起ス
ルニ使用スル所ノ資金ノ需要ヲ規則立ツヘキ確乎タル証據
ヲ現ズベキヲ看破セシナラント

○リチャルドソン曰ク 余ハ是下ノ疑問題一篇ヲ領收シ而メ
之ヲ余カ知已某氏ニ示セリ氏ハ理財ノ事ニ付テハ特トニ博識
ナル人ニシテ且ツ當府下ニ於テ營業セル一大銀行ノ支配人中
ノ一人ナリ余ハ甚タ氏ノ判斷ヲ以テ貴尚スベキ所アリトス然
リト雖氏ハ書面ニテ余ニ報答ヲナスノ際或ハ種々迷誤セシ
所アリシナラント余カ想像スルヲ包秘スル所ナク明言セサ
ルヲ得ガルナリ因テ余ハ聊カモ論評ヲ加ヘズ其終之ヲ足下ニ
示スベシ但之ニ添ヘテ一言スルヲアリ余ハ氏ト共ニ此事ニ付

キテ十分ニ論議ヲ尽シ漏ス所ナキカ如シ而メ又足下ガ是迄ニ
論進シ且ツ談話論ノ報告欄内新聞紙上ニ公告シ来リシ所ノ趣
旨ニ付キテ氏ノ特トニ注意ヲ尽サンコトヲ請ヘリ氏ハ則チ足下
ノ問題ヲ閱覽シ其條々ニ對シテ均シク之ヲ五条ニ別ツテ左ノ
如ク答辨ヲナシタリ

第一何トナレハ政府ハ最早ヤ自餘ノ公債証書ヲ発行スルヲ要
セスシテ却テ國債ヲ此上増加セシヨリ寧ロ償却ノ政略ヲ行
ハントヲ欲望スレハナリ

第二政府ノ三分利付公債証書ハ銀行ノ準備中ニ置ク片ハ無利
息合法紙幣ト同一ノ功能ヲ為スカ故ニ然ルナリ故ニ無利息
合法紙幣ヲ所有スルト三分利付公債証書ヲ所有スルト損益
如何ヲ計較スレハ銀行ノ為メニハ三分利付公債証書ヲ方ヲ
利益アリトス然レ氏若シ之ヲ以テ準備ト為スコト得サル片ハ

速カニ尽ク其交換ヲ請求スルニ至ルベシ

第三四分利付公債証書(若シ之ヲ發行シテ他ノ公債証書ニ代ニ
ルコトアルモ)ハ極メテ現今ノ三分利付公債証書ト全轍ヲ踐ム
ヘキヤ疑ナシ而メ到底諸商人ハ之ヲ所有スルヲ欲セサルノ
ミナラズ銀行ト雖氏之ヲ保有スル(第二条ノ答辨ニ於ケルガ
如キ理ニ因テ)ニ現今法律上ノ準備百分ノ二十五ノ外ハ之ヲ
保有スルヲ欲セザルベシ然リ而メ若シ四分利付公債証書發
行セラルハニ當ラハ多少之ヲ六分利付公債証書ニ代ヘテ領
収スルモノアルヤ否ヤニ付テハ余ガ大ニ疑フ所ニシテ仮令
ヒ四分利付公債証書ガ合法紙幣ト相互交換セラルハノ便ア
ルモ銀行ニ於テハ之ガ為メニ百ニ付キ百十六又八百十八ヲ
拂ハザルベシ

第四六分利付「ユルレンシー、ボンツ」ハ殆ト法律上ノ利息(即チ

七分ノ割合ニ當ルカ故ニ財主貯蓄銀行其他ノモノハ準備
トシテ之ヲ保有センカ為メニ些少ノ溢價ヲ与フ斯ノ如キ
理由アルヲ以テ銀行ハ身元慥カナル者ニハ其需メニ應シテ
該「ボンズ」ノ割引ノ割合ヲ時相場ヨリ一二分減シテ金圓ヲ貸
付セリ我カ合衆國ニ於テハ常ニ使用ノ道ヲ求ムル所ノ許多
ノ遊金アルガ故ニ一ヶ月一分ノ利益ヲ獲能フノ時ト雖モ六
分乃至七分利付ノ「ステートボンツ」又ハ「シナ、ボンツ」ヲ買収
セリ

若シ合衆國公債証書ハ（仮令何程ノ利息ヲ拂フニモセヨ）之ヲ
シテ通用貨幣ト相互ニ交換スルヲ得センムルハ甚タ世ニ
貴重セラルベキトノ見込ノ得失ヲ確定セント欲セバ須ラク
我カ前キノ「ステート」銀行條例ニ基キタル「ステート、ボンツ」ノ
結果如何ヲ回顧スベシ「ステート」銀行條例ノ現今ノ合衆國銀

行條例ニ変移スルニ及ブヤ「ステートボンツ」ノ價格ハ忽チ一
割乃至一割五分ノ下落ヲ来タセリ何シカ故ニ然リシヤヲ搜
ヌルニ「ステート、ボンツ」ハ銀行手形ノ担保トシテ家早之ヲ准
備スルヲ要セガリシガ故ニ前キニハ銀行ハ此ノ「ステートボ
ンツ」ヲ其銀行手形發行ノ額ニ應シテ準備シタレモ現今ニ至
リテハ之レヲ用エル所ノ場所甚タ狭小トナリタレハナリ
何時ニテモ交換ヲ請求シ得ル所ノ公債証書ヲ以テ銀行ノ准
備トナサバ爾ヲ得ガレ銀行條例ノ存立セル間ハ公債証書ノ
利息仮令ニ僅カニ一分ナルモ銀行ニ取リテハ其準備トシテ
合法通用貨幣ヲ保有センヨリ寧ロ公債証書ヲ保有スルハ毫
モ疑ヲ容ルベキナシ然リト雖モ若シ合衆國公債証書ノ持主
一般ニ其所好ニ任セテ其所有ノ公債証書「ギリ、ンベツキ」紙
幣トニ換スルヲ得ルハ物價上ト貿易上トニ如何ナル

關係ヲ發生シ來ルベキ又公債証書ト紙幣トノ間ニ相互交換ノ法ハ仮令ヒ之ヲ設クルモ到底無用ニ屬スベシ何トナレハ銀行其他ノ人々ハ何レカ其害モ有益ナル方ニ交換スルカ故ニ其額ハ唯僅々タル小額ノミ相互ニ交換セラル、ノミナルベケレハナリ

余若シ足下ガ發意セル公債証書紙幣相互交換法ノ本旨ヲ十分ニ曉解シ公債証書ノ利息ノ割合愈々高ケレハ貨幣流通ノ壅塞愈々甚ダシキニ至ルヘキノ理アリ更ニ之ヲ細説スレハ銀行ノ三分利付公債証書ヲ保有セル時ヲ以テ六分利付公債証書ヲ保有セル時ニ比セハ必ス甲(三分利付公債証書)ヲ紙幣ニ交換スルヨリモ一層速カナルベシ是ヲ以テ銀行ハ乙ノ場合ニ於テルヨリ甲ノ場合ニ於テハ紙幣ヲ保有スルニ至ルベシ

右ノ理ヲ尚ホ巨細説明センニ若シ紙幣ヲ運用スル片ハ其得ル所ノ利益公債証書ノ利息ノ割合ヨリ多分ニ當ル場合ニ在リテハ則チ公債証書ヲ以テ紙幣ニ交換シ又之ニ反シテ紙幣ヲ流用シテ得ル所ノ利益公債証書ノ利息ニ及ハカル片ハ則紙幣ヲ公債証書ニ交換スベシ

若シ此法ヲシテ實際ニ施スニ足ルモノトナスモ尚ホ未タ疑團ノ解ケガルモノアリ即チ紙幣ノ發行度ニ過^〇クルノ恐レ是レナリ蓋シ其流通高度ヲ過^〇クルニ當リテハ貿易上ト物價上ト如何ナル影響ヲ来^〇ントスルヤ窺モ深ク考究セガルヘカラガ^〇ルナリ

第五英國銀行ノ履歷ヲ讀ミ左思右考非常ノ注意ヲ須ヒタル上ニテ余ハ漸ク金利割合ノ高低ガ依テ以テ新事業發起ニ用ユル貨幣ノ需要ヲ支配スルノ理ヲ了解スルニ至^〇レリ余カ英國

ラハ實ニ喜バベキ事ナリ余ハ余カ知己ノ歐洲人ニ會スル毎ニ
屢々貨幣事件ニ付キ談論スルニ歐洲商人ニシテ尚ホ多分ハ英
國ノ理財史ニ付キ全ク決答シ能ハサルヲ如何セン

○エルドリツチ曰ク 諸君ヨ余カ爰ニ一言ヲ容ル、ヲ許セ余
カ此會談ニ出席スルハ唯傍聴ヲナシカ為メノミナレハ素ヨ
リ諸君談論中ニ一言ヲ容レ之ヲ遮断スルヲ以テ適當ト思考
スルニアラズ然レモ余尚ホ敢テ一言セン「リチャルドリン」氏ノ
友人ナル銀行支配人某氏ガ「グルーム」氏ノ疑問ニ對シテ陳ヘシ
所ノ答辯ニ付キ「グルーム」氏ハ之ヲ如何トナシ且ツ其言ハント
欲スル所ノ説ヲ聽カン「ヲ」渴望スト

○グルーム曰ク 第一條ノ余カ疑問ト其途ヲ異ニスル當ニ霄壤
ノミナラス且氏（某銀行ハ支配人ヲ指ス）ハ深ク迷霧ノ中ニ沈
ノルモノ、如シ彼ノ合法貨幣條例中ノ一章ノ廢サレシハ政府

カ借主タルヲ止ムル久シキ前ノ事ナリキ余之ヲ考按スルニ
該章ノ廢サレシ所以ハ人民ニ其望ミニ任セ合法紙幣ヲ以テ五
年ヨリ短ナラス二十年ヨリ長カラサル期限ノ公債証書ニ交換
スルノ權ヲ得セシムルハ紙幣ノ流通上ニ在ルモノ必ス拂底
ニ至ラン

第二條ノ答辯ハ其理適正ナレハ亦タ別ニ批評ヲ容ルヘキ所ナ
シ第三條ノ如キハ全ク余カ疑問ノ趣意ヲ誤解セリ銀行カ四分
利付公債証書ニ向ヒ百ニ付キ百十六又ハ百十八ヲ拂フヘキト
ノ想像ハ仮令ヒ四分利付公債証書ガ「ギリーン、ベッキ」紙幣ト相
互交換セラルベキニモセヨ實ニ抱腹ニ堪ヘサルノ想像ナリ若
シ持主ノ望ミニ任セ甲乙（紙幣ト公債証書トノ二者ヲ指ス）ノ間
相互ニ交換スルヲ得タランニハ甲乙共ニ均平ノ地位ニ居テ
決シテ甲ノ價乙ニ越ヘ乙ノ價甲ヨリ溢ル、等ノヲナカルベシ

果シテ然ラハ工商ヲ始メ何種ノ等類ヲ問ハズ總テ其取引上ニ
無上ノ便宜ヲ受クヘキハ余ノ毫モ疑カハサル所ナリ第四第五兩
條ノ答辯ニ至リテハ全ク余カ欲スル所ニ適ヘリ若シ此ノ答辯
ヲ以テ正理ナリトセハ則チ我輩ノ説ノ完然ナル他ニ煩辯ヲ費
サスミテ明ラカサリ

○チリヤルドバン曰ク 余ハ兩三日前ノ「モーニング・デリー」
新聞紙上ニ掲載セシ所ノ通貨論一篇ヲ足下ニ讀ミ聞カセシ尤
モ其文長篇ナラサルカ故僅カニ二秒時ヲ費ヤサハ讀ミ了ルヘ
シ余ハ請フ足下ガ此ノ論點ノ一二ニ付キ答辯ヲ余ニ与ヘン
ヲ乃チ朗讀シテ曰ク

中古王侯等其國內ノ貨幣ヲ充満セシメ且ツ國民ノ私財ヲ強
奪セシカ爲メニ施セシ謀略中ニ於テ其國內ノ通用貨幣ヲ鑄
造スル雜物ヲ混合シ或ハ形体ヲ小ニセシヲアリキ當時ハ

イス、ドルス又ハ「フロリン」(共ニ貨幣ノ名)ノ如キ其名目タル一
箇ノ「ルーイス、ドル」又ハ「フロリン」ニ違ハスト雖モ其實ニ至テ
ハ僅カニ其一半或ハ三分一ノ貴金ヲ含有セルノミナリ而シテ
國君ハ其一半或ハ三分ノ二ヲ利得シ人民ハ之ニ反シテ此損
耗ヲ償フモノト假定サレタリキ不交換紙幣ノ如キモ尔是レ
取リモ直サズ消費者ノ財ヲ掠奪スルモノナリ

若シ合衆國公債証書ガ信用スベキ堅固ナル基礎ヲ有セサル
紙幣ヲ以テ常ニ拂ハル、片ハ「ギリーン、ベッキ」紙幣ノ價格上
測ルベカラガハ非常ノ下落ヲ来タスベキハ更ラニ言フヲ埃
タガハベシ此時ニ當リテヤ紙幣一帛ノ價格(縦ニ今日ノ相
庭ハ七十五セント「ナルモ」恐ラクハ三十三セント)ニ下落セン
モ亦計リ難シ財主ノ如キハ之ヲ下等社會ノ人民ニ比スレハ
已ニ破裂シ来タレル所ノ騷動ノ現象ヲ知ルニ疾クシテ且

ツ將來ノ行情ヲ予想スルニ敏捷ナルカ故ニ成ル丈ケ速カニ
其所有ノ公債證書ヲ賣却シ而シ其貨幣ヲ家屋及ヒ地面ノ如
キ永久價アル物ニ向ケ使用スベシ夫ノ貧民等後ニ至テ初メ
テ覺知シ其前キニ賣却セシ所ノ家屋或ハ地面ヲ買ヒ戻サン
トスルモ時既ニ晚クシテ及ハス其辛苦常々ヨリ得シ所ノ貯
蓄ハ減シテ前日ノ半價ニマテ至リシヲ見出スベシ而シ貯
蓄銀行保信會社火難請負會社及ヒ人命請負會社等ノ如キモ
其準備ニ充テタル所ノ政府ノ證書回ラスモ悉ク前日ノ價格
ヨリ一半以上モ減少セルヲ見出スベシ随テ此等ノ會社ニ寄
托シ貯蓄セル所ノ職工モ亦貧困ニ陥ルベシ然リト雖モ是等
ノ事ノ如キハ未タ以テ公債證書紙幣交換ヨリ生スル所ノ貧
人ノ家大不キト為スニ足ラザルベシ紙幣ノ現今ノ減價カ職
工及ヒ消費者ニ被ムラシムルノ醜毒ハ商人及ヒ上等社會ニ

被ムラシムル所ヨリモ一層甚ダシ「コムミツ」シヨ子ル官ウエ
「デス」氏ガ編製セシ所ノ精細ナル統計表ニ拠リテ之ヲ觀レ
ハ職工及ヒ下等社會ノ估計費用ハ過ル兩三年ニ於テハ百分
ノ八十七半即チ八割七分半ヲ増加シタリ然ルニ其給料等ハ
之ニ比例シテハ全ク増加セザリキ此ノ理由ヲ説明セン「ハ
甚タ難事ニ非ズ凡ソ價格ノ本位確固ナラサルニ於テハ他辭
ヲ以テ之ヲ言ハ、金ヲ以テ通用貨幣ノ基礎トナサ、ルハ
各小賣製者商人及ヒ輸入者ハ其不時ノ損失ヲ補償センカ
為メニ其商品ニ二倍三倍ノ利潤ヲ附加シテ之ヲ得意先キニ
鬻カザルベカラス然カスル所以ノモノハ他ナシ各商人等カ
其商品ヲ買入レシ後ニテ貨幣ノ價格ニ浮沈變動ヲ生スル
アレハ通例ノ利潤ノ如キハ全ク消失シテ痕ヲ留メザルヲア
レハナリ故ニ斯ル浮沈變動ヨリ生スル所ノ損失ヲ預防セ

シカ為メニ附加スル所ノ利潤ハ各商人ノ手ヲ經ル毎トニ幾
分カツトチ増加スヘケレハ物品ノ結局職工ノ手ニ達スル時
ハ既ニ非常ノ高價トナルナリ
且ツ又々通用貨幣ノ價格ニ浮沈アルハ獨リ商人等カ浮利ヲ
貪ムルノ口實トナルノミナルベシ若シ吾カ合衆國通用貨幣
ノ價格非常ノ下落ニ至ルニ及ハ、(紙幣ヲ以テ公債証書ノ償
還ニ充ツルヲアラハ則チ其非常ノ下落自ラ避クヘカラサル
カ故ニ)斯ル浮沈變動ハ益々甚シキニ至ルヘシ而メ職工社會
ニ至リテハ紙幣ノ下落愈々甚シケレハ其醜毒ヲ被ムル
愈々酷ナルヘシ加之其傭錢ノ如キハ決シテ物價ノ騰貴ニ連
レテ増加スルモノニアラザルカ故ニ為メニ該社會ノ間ニ競
爭ヲ起スニ至ルヤ必然ナリ先ツ南北戰爭中ノヲテ回想セヨ
金價ノ騰貴ヲ醸シ来リシハ忽チノヲナリシカモ職工ノ傭錢

カ物價ノ騰貴ニ連レテ平均ノ増加ヲ得シハ遙カニ之レニ
後レタリ而メ給料ノ如キニ至リテハ到底物價ノ騰貴ノ真ノ
平均ヲ得ルニ遠セリキ財本ノ如キモ亦々國債ヲ廢棄_{金貨}
用_{紙幣ノ意}スルカ如キ非常ノ處置アルニ當リテハ其働キ
ヲ失ヒ前日ノ如クニ職工ヲ傭役スルモノ無キニ至ルヘシ而
メ紙幣ヲ以テ公債証書ノ償還ニ充ツルカ為メ紙幣ハ其發行
額ヲ増加シ随テ金價騰貴スルカ故ニ種々ノ原因ヨリシテ職
工社會ノ頭上ニ大厄難ヲ被ムラシムルニ至ルベシ此時ニ當
リニヤ物價ハ愈々騰貴シ職工社會ヲシテ饑餓ニ至ラシムル
モ其傭錢ハ仍ホ依然トシテ低賤ノ地位ニ止マリ財本ノ働ラ
キハ鈍滞シテ職工ノ傭役漸ヤク衰フベシ然リ而メ職工カ依
テ以テ豐樂センヲ希望セン所ノ貯蓄ハ今ヤ其價格ノ大半
ヲ失フベシ而メ取付騒動益々旺盛シ金價亦々騰貴シ遂ニ

紙幣ハ「コンヘデレート」ヤーバー、モニ

南北戦時ノ南部ノ如ク下落スルニ至ルベシ

此時ニ方テヤ社會ノ壊滅其極ニ至リ
傭者被傭者共ニ困窮シ就中極窮者ノ如キハ手足ヲ措ク所
ナカラシ

○グルーム曰ク 貴下ハ今テ余ニ續ミ聞カセシ所ノ論說ニ付
キチ余カ説ヲ聞カンヲ要スルノ意ナルヤ

○リチャルトリン曰ク 然リ余カ之ヲ足下ニ讀ミ聞カセシ所
以ノ主意ハ其實此点ニアルナリ

○グルーム曰ク 其論說ノ如キハ特ニ思慮ヲ費ヤセシ程ノ價
アラサルナリ若シ其内或ハ價アルモノアリトスルハ仮令ヒ
其議論ノ主意ハ金貨本位ノ説ヨリ出タルニ相違ナキニモヨ
ヨ却テ全ク紙幣説ノ為ニセシモノナリ貨幣ノ形体ヲ少ニシ
或ハ雜物ヲ混合シテ其量ヲ充テ以テ恣ニニ通用貨幣ノ

實ヲ変スルハ固ヨリ詐欺ナリ然シテ之ヲ詐欺ト為ス所以ノモ
ノハ財主社會ニ大害ヲ被ムラシメテ獨リ負債者社會ヲ益セシ
ムレハナリ然レニ強テ正金拂ノ恢復ヲサシメントスルハ當
ニ順序ヲ謬マルノミナラス均シク是レ亦詐欺ナルヘクシテ且
ツ總テ商賣上ノ利益ニ取リテハ却テ數層ノ困難ヲ來スヘシ思
フニ記者某氏ハ其説ヲ立ツルニ半表半裡ニ在ルカ如キ卑鄙ナ
ルモノニハアラサルベシ然リト雖モ如何セン其論スル所ノ事
未タ某氏カ講究セサル所ノ事ニ係ルヲ以テ因ラス斯ル曖昧模
稜ニ涉リタリ豈ニ悲シカラズヤ凡リ人タルモノ、世ニ處ルヤ
必ス貧若シクハ富ノ一方ニ偏ヨルモノナレハ一時ニ貧富ヲ併
セ享クルヲ能ハサルナリ

凡リ測量者タルモノ旧地券ニ拠テ一區ノ地ヲ測量セントスル
片ハ先ツ其基點ヲ正シク定ムルヲ緊要トス然ルニ今日ノ貨

幣論記者等ハ元來一個ノ正金拂恢復ヲ要スル謬見ヲ其胸中ニ
存シ業ニ既ニ其始メニ於テ見テ誤マルカ故ニ是非其謬ヲ始終
伴ナハサルヲ得サルナリ貴下ハ必ス記憶スルナラン我輩が曾
テ何人ニテモ適當ノ手數ヲ經テ撰舉セラレタル陪審者ニシテ
我輩カ斯ル陪審者ニ對シ該件ニ付キ議論セシ上正金恢復ノ是
ルヲヲ証拠立テ得ヘキモノアラハ一千弗ノ賞金ヲ与ヘント開
陳セシヲアルヲ然ルニ今日ニ至ルマテ誰アリテ此賞金ヲ受ケ
ンコノ望ミヲ示セシモノハアラサルナリ此頃「ユーローク、ウ
ナル」新聞紙上ニ掲載セシ所ノ左ノ論說ヲ閱スルニ及ンテ
余ハ稍々驚愕スル所アリキ

若シ内國債ノ額諸銀行紙幣ノ流通額ニ超過セサレバ銀行ハ
其利息僅カ一年二分ナルモ之ヲ引受ケ準備トシ銀行紙幣ヲ
發行シ之ヲ流用セシメバセカノ利子ヲ得又國債証書ヨリ得

ル所ノ利子二分ヲ併テ九分ノ利ヲ得是レ實ニ過分ノ金利ト
云フ可シ諸テ公債ノ額ハ國ヨリ夥タレバ銀行紙幣ノ流通
額ヨリモ遙ニ巨大ナルヲ必然ナリ然リト雖諸銀行今日ノ
如ク公債証書ヲ利用シ得ルヲ大ナルヲ以テ觀ルハ公債ノ
利息ヲ低減スルニ足ルモノアリ何トサレハ南北戦争以前ニ
在テハ國債証書ヲ準備トシ銀行紙幣ヲ發行スルヲアラサリ
シカ為メ獨リ其固有ノ利息ノミニ止マリ他ニ之ヨリ利益ヲ
收ムルノ方便ナルモノアラサレバナリ此ニ人公債証書ノ利
息ノ低下ナラサルヘカサレ所以ノ理アリ何リヤ曰ク公債
証書ハ州稅縣稅ヲ免カル、ナル則チ是レナリ方今「ニウヨ
ルク」府ノ六分利付公債証書ハ毫モ其價ヲ損スルナク何時
ニテモ平等ノ價ニテ賣買セラル○六分ノ利息ナル者ハ年
限貸シノ利息ニハ穩當ノ割合ナルカ如シ夫レ州稅縣稅ノ割

合蓋シ公債証書ハ二分乃至三分ノ間ナルヲ以テ暫ク之ヲ二
分ト看做シ今ヤ四分利ヲ以テ無税公債証書ヲ發行セバ則チ
其價格「二ウヨルク」府ノ六分利付公債証書ニ異ナル所ナシ世
ノ財主タルモノ深ク熟考セヨ公債証書ヲ措キ他ニ之ニ均シ
キニ全確實ナル抵當ノ為メニ貸金シ右ニ當ル利息ヲ得能フ
ヤ否ヤヲ是ヲ以テ大政府ハ「二ウヨルク」府ノ十分利付公債証
書ニ於ケル如ク無税四分利付公債証書ヲ發行シ以テ募金シ
能フハ亦容易ナルヘシ南北戰時以前ノ縣稅ヲ以テ之ヲ今時
ニ比スレハ稍々薄ク且ツ「フエデラル」公債証書ノ稅ノ「フ」ニ付
テハ世人之ヲ殆ント不問ニ置キシヲナリキ
當時ニ在リテハ又諸貸借利息ノ割合一定セス只其時ノ景況
ニ連レシノ「フ」ニテ多クハ巨額ノ金ヲ甘ンシテ無利息ノ貸
付セリ

銀行ハ其流用紙幣ノ高及ニ其預リ金高ニ付テハ諸人ニ對シ
負債者タレモ該兩項ノ金額ニ毫モ利息ヲ拂フヲナク且ツ此
無利息預リ金ヲ流用シ以テ七分ノ利ヲ收ム是ヲ以テ其制規
ノ利息ヲ收ムル所ノ金ハ多クハ其預リ金ニシテ其元ハ他ヨ
リ銀行ヘ貸付セシ所ノモノナリ何ニ故ニ衆人ハ斯ク無利足
ニテ數億万ノ金ヲ銀行ニ寄托スルヤ是レ他ナシ銀行營業時
間内ハ何時ニテモ之ヲ引出シ得ルヲ以テナリ是ヲ以テ預ケ
主ノ都合恰モ其金額ヲ自カラ貯藏セシニ異ナラサルナリ諸
國債証書ヲ買フハ稍々便利ノ度之ニ異ナレリト雖モ概ネ
斯理ニ外ナラサルヘシ何トナレバ國債証書ハ決テ危險ノ恐
レナクシテ何時ニテモ貨幣ニ引換易キ所アレバナリ故ニ若
シ多分ノ金ヲ所有セル人之ヲ利用スルノ道ニアリハ無利
息ニテ銀行ニ預ケ何時ニテモ為換手形ニテ之ヲ引出ス様ニ

シハ利付公債証書ヲ買ヒ措キ金ヲ要スル片ハ何時ニテモ
之ヲ賣リ拂フ様ニシ置クヲ是レナリ是ノ故ニ公債証書若シ
深ク世ノ信用ヲ得價ニ昂低ヲ生セサル片ハ縱令ニ其利息甚
ク低キモ必ス之ヲ買收スルヲ以テ可トス若シ否ラズシテ之
ヲ以テ不動産等ニテシ置ク片ハ一朝貨幣ヲ要スルニ方リ容
易ニ賣買ノ道ヲキヲ如何セン之ヲ銀行ニ寄托セン乎利息ヲ
生セサルヲ如何セン之ヲ私立會社ノ株券トセシカ破産ノ恐
レアルヲ如何セン是ヲ以テ政府并然トシテ財務ヲ脩メ通貨
ニ關スルノ諸則備ハリ民間ノ信用篤キ片ハ貨幣ヲ公債証書
トナス其便殆ント之ヲ良銀行ニ寄托セシニ異ナラサルノミ
ナラス其上之ヲ賣却スル迄ノ間ハ其利息ヲ收ムルノ益アリ
トス前記ノ利アレハ公債証書ノ利息ハ何程低クモ諸人ノ
之ヲ望メンヲ必然ナリ是故ニ政府ノ財政其宜シキヲ得バ政

府ハ普通ノ利息ノ割合ヨリ非常ノ低利ヲ以テ債ヲ募ルヲヲ
得ルナリ

○ソイツウ井ノニ曰ク余此項通用紙幣ノ事ニ付「アノリカン」ウ
オークソン新聞紙上ニ掲載セシ「カノレーブル」ヘンリー、シー、ケ
ーリ」氏ノ筆ニ係ル一説ヲ閱シタリ若シ貴下等其長文ナルヲ
厭ハスンハ余ハ好シテ之ヲ一讀シ聞カシメンヲ欲スル
ナリ

○グルーヴ曰ク余ハ貴下ノ之ヲ余等ニ讀ミ聞カセンヲ願
フナル彼ノ「ケーリー」氏ハ博識ナル鴻儒ナレハ其説必ス傾聴ス
ルニ足ルヘキ卓論ナラン

○リチャルドソン曰ク「ソイツウ井ツキ」氏ヨ其説ヲ讀ミ聞カ
セラレヨ

○ソイツウ井ツキ曰ク余ハ先ツ其題号ヨリ讀ミ始ムヘシ

綠裏紙幣潤澤ノ説

吾カ合衆國ハ紙幣ノ潤澤ニ依テ一般ノ盛昌ヲ致ス事、吾カ
金融ヲ助ケ事業ヲ興隆セシメシハ紙幣ヲ減セシヨリ寧
口増サンヲ要スル事、吾カ合衆國ハ理財上ノ困弊ヲ濟フヲ
以テ第一ノ要務トナス事

夫レ人心ハ昨日ノ事情ニ尚ホ記セス況ヤ理財論ノ如キハ特
ニ等閑ノ看ヲ為ス者ナリ既往ヲ回顧スルニ南北戦乱ノ起リ
シ實因ハ那邊ニ胚胎セシヤ之ヲ討究スル往々妄見ヲ免レサ
ルヲ以テ今マ茲ニ其事實ヲ証明スル所アラシ其頃金融ニ窘
ミラレシ景状ヲ以テ余ハ恰モ器械ノ働キニ於ケル如キ有様ナ
リトス然ルニ學士ノ所見ハ概テ前ノ論按ニ拘泥スル而已ニテ
全ク左ノ言實ヲ失フ所アリ則チ一千八百十五年ヨリ一千八
百六年ノ間但シ原文ニハ故サテ誤解シテ一千八百二十八年ト
全ク四十二年トニテ年ハ保護稅ヲ課セシニ依リ

之ヲ本文ノ年限内ヨリ除却シテ注疏ニ連フト云ル然レハ誤文
自ラ交雜ノ患アルヲ以テ之ヲ注疏ニ連フト云ル然レハ誤文
務上頗ル幣ヲ生シ人民融通ノ道愈々切迫スルニ際催債人ノ
如キハ元來富有ノ民ナレハ之レカ為メ却テ財ヲ殖スルノ方便
アリト雖モ亦產ナキ負債者ノ類ハ益々窮途ニ赴キ殆ト零落ヲ
救フノ手段ヲ失ヘリ然レハ其頃銀行ノ開店セシモノ僅カニ四
所ニ過キサリシ又内地ノ中央ヨリ西南ノ諸國ハ金利ノ相場著
シク一般ニ騰貴シ歐洲文明國ニ於テモ未タ其比ヲ見サル程ナ
リ又諸般ノ財物ハ全ク英國銀行ノ景況ニ随ニ目ヲ其價ヲ定ム
ルノ勢トナリ、鐵道、製造、鑛山、製鐵ノ諸會社ハ屢々斯ノ困厄ニ遭
遇シタレハ竟ニ財本ヲ傾ケ破産スルニ及ヒ年來自由貿易法ノ
稅則ヲ施セシヲ以テ外國ノ為メニ國益ヲ制セラレ國民ノ田宅
ハ轉シテ彼レノ占有スル所トナレハ殆ト民間ノ不動産ハ立法
官一握ノ下ニ顛墜サレシト云フ可シ而メ爾後叛乱ヲ致セシ者

ハ英國ノ銀行カ恰モ螺旋機ヲ一轉スルカ如ク容易ニ國內ノ財
源ヲ杜絶シタルヨリ竟ニ乱階ヲ茲ニ喚起シタルナリ抑モ其次
第ヲ尋マルニ我カ内地ニ融通スル金額固ヨリ此少ナルカ故一
且外人ノ為ノニ之レカ融通ヲ遮断サルレハ人々營業ノ道ヲ失
フニ依リ民間ノ金融自カラ閉塞スルノミナラス官民ノ依頼シ
テ以テ衣食トスル所ノモノ悉ク喪失スレハ其勢決シテ擾乱ヲ
免レサル故ナリ

叛乱ヲ醸ス初日ニ於ケル事物ノ真象如何ヲ左ニ述ベシ之ヲ述フ
ルニ方リ全合衆國ハ大勢ヲ一覽シ其初日ヲ一千八百六十一年第
三月四日トナシハ其發現左ノ如シ

斯ノ時ニ方テ國內ノ諸業全ク塞リ人々傭役スル者ナキヲ以
テ其職ヲ失ヒシ數十万ノ男女ハ途上ニ彷徨スルニ至リ數十万
ノ工匠農夫商估ノ徒ハ各自ノ貨物ヲ有スルノミニテ市場ハ日

々ニ衰微ニ赴キ更ニ物品ヲ需求スル者ナク地方ノ商估ハ都府
取引先ノ負債ヲ并消セシカ為メ簿冊ヲ翻シテ貨幣ヲ求ムルノ
方法ナキニ困ハシレカ為メ都府ノ商戸モ入金ノ都合ヲ妨ケラ
レ自己ノ金券ヲ拂フ手段ニ煩フノ勢トナレリ又大小ニ関セス
諸般ノ製造局ハ日々接踵シテ休業スルヲ以テ徒手ノ傭夫世間
ニ溢ルノ有様ナリ銀行製造製鉄等ノ株主ハ利金ノ分配乏シケ
レハ市場ニ於テ安リニ物品ヲ需求セサルニ至ル殊ニ國庫ハ空
乏ヲ告ルノミニテ殆ト恢復ノ期ヲ知ス蓋シ斯ク不景氣ノ際ニ
方テハ糧食ヲ求ムル工匠アリ衣被ヲ尋マル農夫アレバ工匠現
ニ餘財アラサレハ之ヲ農夫ニ与フル克ハス從テ農夫モ衣被ヲ
獲ルノ方便ナシ又地方ノ製造局ハ日々ニ衰廢シテ雇主ノ引負
トナリシ男女ノ傭工ハ徒ラニ手ヲ束ヌルノミニシテ使役セラレ
サル程ナレハ邑里ノ小商ハ都府ノ負債ヲ償却スルノ道ナシ又

都下ノ景況ヲ觀ルニ地方取引人ヨリ契約ノ如ク差金セサルニ依リ諸商人ハ為ノニ已ノ金券ヲ拂テ克ハス医師地主ノ如キハ賃料ヲ收入スルヲ克ハス是ニ於テ貴トナク賤トナク國內ノ諸民皆ノ自己ノ費用ヲ節減スルヲ以テ國庫ノ稅額之レカ為メニ減シテ更ニ供用ヲ受クル所ナシ此際ニ方リ勞夫ノ如キ下等會社ハ特ニ窘迫セシ所アリ則チ左ニ景況ヲ述ン

偶々糧食ヲ求メンカ為メ賃幣ヲ農夫ニ与フル者アラハ農夫從テ衣被ヲ求メンカ為メ之ヲ小商ニ与フ可ク小商從テ己ノ負債ヲ拂ハシカ為メ之ヲ都府ニ輸ス可シ此ヨリ分派シテ銀行ニ渡リ官吏ニ渡リ医師ニ地主ニ遍ク世上ニ流布セハ金融直チニ開テ速ニ景況ヲ變スルナラン然ルニ斯ク切迫ニ會シテハ一片ノ金貨モ安リ人目ニ觸レス或ハ多少ノ貨幣ヲ貯フ者アルモ其需求者許多ナルヲ以テ恐ラク其金額ヲ需用ノ度ニ割付

スルハ極メテ僅少ナル可シ故ニ偶々貨幣ヲ有スル者ハ十分ニ借方ヨリ高利ヲ食ラサレハ肯テ之ヲ貸与セサルニ由リ都下ノ商人ハ已ムヲ得ス年一割ヨリ一割半ノ利子ヲ拂ヒ初メテ製造品ノ資金ヲ得レハ其製造品ヲ地方ノ小商ニ卸賣センニハ必其品價ニ金利ヲ加ヘサルヲ得ス隨テ小商モ亦金利ヲ加ヘテ之ヲ地方ニ販賣スルカ故ニ其價益々騰貴ス而シテ其家モ高キ價ヲ拂ヒ之ヲ消費スル者ハ農工匠ノ社會ナリ是ヲ以テ金融壅塞スルニ隨ヒ農工匠社會ノ窘窮ハ弥々甚シ然ルニ貸屋ノ續々營業アル幾百軒ナルヤヲ知ラス是レ富者益々富ミ貧者益々貧ニキニ陷ルノ徵候ナリ斯ノ如ク富民愈々富裕ヲ増シ貧民愈々貧困ニ陷ル者ハ何リヤ夫ノ殷富ノ名アル「カリホニヤ」ノ金鑛ハ未タ國民ニ供用スルニ足ラサル乎曰ク否ナ彼ノ金鑛ハ年來數千万ノ財寶ヲ産セリ然ラハ何ニ由テ然ルヤ曰ク年頃英國人ハ自由貿易ヲ以

テ殖財ノ要道トシテ之ヲ我カ國民ニ傳教セシカ為メニ自ラ其說ニ達シ只
管テ小麦麵粉穀類豚肉羊毛杯ノ天產物ヲ英國ニ輸出スレハ英人ニ若干
人エヲ加ヘ後々再ニ我國ニ輸入スル片ハ其價前日ニ四倍ス然ルニ之ヲ需求スル
内國人ハ其得失損益ヲ惜ラス尚ホ價額ノ不足ヲ償ハシ為メ「カリホルニ
」ノ鑛財ヲ以テ英國人ニ与ヘタリ斯ノ有様ニテ多年ノ間英國人ト貿易セシ
實況ヲ考フルニ其損益ノ差恰モ六「ペンス」英貨ノ名一「ペンス」ハ我カニ錢許ニ當ルヲ以テ全獸皮ヲ賣リ二
十「シルリング」英貨ノ名一「シルリング」ハ我カニ錢許ニ當ルヲ以テ一尾ヲ買フニ異テラズ迂拙モ亦甚
シカラス乎右ノ如ク國民ノ事業ハ自ラ怠惰ニ流カレ坐ロニ衣食ヲ外國ニ仰クノ
有様トナレハ英京ノ龍動「ゴレン」エストル「ビュルミンカハム」佛京ノ巴里「リヲン」ノ
諸工人ハ我國ノ消費セシ金額ヲ以テ却テ己ノ衣食ヲ求ムル一助トナセリ何
カ故ニ銀行ハ容易ニ發行シ得ル融通金券ヲ發行シ彼ノ利子ヲ拂ヒ之ヲ
借ラシヲ厭ハザル諸人ニ貸与シ以テ目下ノ金融ヲ開カサルヤ或ハ之ヲ行フ
ニ困難ナルヲアル乎否ナ然ラス我カ人民ノ需用概テ外國品ニ係リ之レカ為

メニ其價ヲ拂フヲ居多ナルヲ以テ融通金ノ設ケ殆ント徒為ニ属スル所アリ
尤モ「カリホルニヤ」金鑛ハ其價ヲ償フニ足ルト称スト雖モ如何ニせん斯ノ切
迫ニ方リ民間既ニ一金塊ヲ見サルニ至レリ蓋シ内國人ノ外國人ト貿易ス
ルヤ只タ地布着クハ地鉄ノ類ヲ以テ食物ヲ外國人ニ求ムル而已ナラス許
多ノ金利ヲ外國ニ拂フカ故ニ全國ノ歲入或ハ歲出ヲ償フニ足ラサルナリ
内國貿易ノ狀ハ前既ニ其景況ヲ述ル如ク其權柄竟ニ外國人ノ掌握ス
ル所トナリ我カ國民ハ恰モ評價ノ任ヲ外人ニ讓リシ如ク唯タ下風ニ立テ其
鼻息ヲ伺フノミニテ全獸皮ヲ賣ルヤ其價彼ノ財カニ在リ一獸尾ヲ買フヤ
又其價彼ノ權カニ在レハ彼自ラ價直ヲ論シ以テ利益ヲ計ルカ故ニ外人
ハ愈々殷富ヲ加ヘ内國ノ人民ハ之レカ為メニ漸々疲弊シテ殆ト死地ニ
瀕スルノ有様トナレリ
斯ノ世運ニ會シ「リシコロン」氏始テ大統領ノ職ニ登レリ世人ハ夙ニ彼レニ名望
ヲ属スルニ由リ輿情之カ為メニ安シテ其政令ヲ遵奉スルカ故ニ當時ニシ

テ庶民各々生財ノ道ヲ務ムルニ至レリ。諸テ其治術ヲ施セシ所以ノ尋ヌルニ其始メテ政令ヲ布クヤ、全國ニ告テ曰ク、今ヤ紙幣ヲ製シテ以テ品價ニ酬ユルノ方便ヲ立ツレハ、今後工匠農夫商估ノ徒、各其職業ヲ執リ互ニ之ヲ授受スルノ便ヲ得ヘシ。是レ余カ國民ノ為メニ金融ヲ開キ諸人ノ勞力及ヒ財物ヲシテ各其報酬ヲ受ケシメンコトヲ冀圖スル所ニシテ、余ハ斯契約ヲ以テ畢生ノ幸福ヲ其成跡ニ占ハントスルナリ。是ニ於テ民間ノ融通立トコロニ疎開シ農工商ノ諸業日ヲ追テ進歩シ諸製造ノ會社益々盛大ニ赴キ昔日ノ困弊ハ散シテ昨夢ノ如ク殆ト痕跡ヲ留メス。諸般ノ事業各々其面目ヲ改メタリ。蓋シ是レ大統領「リンコルン」氏カ契約ヲ國民ニ告ケ以テ國家ノ休戚ヲ自ラ負任セシカ故ナリ。

右ノ景況ヲ現セシ功勞ハ殆ト「リンコルン」氏ノ政略ニ由レリト云フモ敢テ過言ニアラスト。雖モ内地ノ技藝ハ農工ノ徒諸般ノ職業上ニ於テ各民ノ便ヲ謀ランカ為メニ自ラ勉勵セシヲ以テ畢竟盛大ヲ致セシ所アリ。又一ハ政府カ綠裏紙幣ヲ

製シ之ヲ國民ニ給シ以テ凡ソ人ノ勞力ニナレル諸財ハ其品ト其形トヲ撰ハス悉ク談紙幣ニ交換スルノ法ヲ施セシカ故ナリ。夫勞夫ノ衣食ニ於ル農夫ノ商貨ニ於ル工師ノ學夫及ヒ農夫ニ於ケル船匠ノ木鉄及ヒ器具ニ於ケル皆ナ紙幣ヲ以テ各々其需用ヲ充サハルハ莫シ。

國民紙幣ヲ信シテ之ヲ流通スルヲ以テ貿易上ノ事業日々ニ改進シテ衣食鉄ノ國產ハ勿論家屋船舶碇車鑛山製鐵ノ諸業并ニ與リ國內ノ有様ハ頓ニ変シテ未曾有ノ景況ヲ現ハスニ至レリ。往日英國ニ財本ヲ仰カサルヲ得サリシ頃ハ數十萬「トル」ノ金額ヲ募ルヌラ殆ト困却ヲ免カレサリシニ現時ハ數億「トル」ノ巨額ナルモ之ヲ政府ニ納レテ國用ニ充ルヲ得蓋シ紙幣ハ唯タ國民ノ信用ニ依テ斯ノ如ク其成績ヲ現ハシ外人ヲ驚セシムル程ノ好結果ヲ得タリ而シテ又國家ノ財務斯ク改良セシ者ハ宇内ノ史編ニ於テ未タ其比類ヲ觀サル所ナリ。

南北戰亂ノ際政府ノ國是トスル所ハ一般ニ諸民ト和合スルニ在リシナリ。但シ國內ノ民族ハ特ニ富有ナル者稀レニシテ或ハ金ヲ借ランコトヲ望ミ或ハ傭役セラレシコトヲ望

ミ或ハ勞作品ヲ商シトスル者尤モ多キニ居リ國民十分ノ十九ハ皆ナ此ノ類ナルヲ以
叛亂漸ク治リ國家再ニ靜寧ニ復セシ時政府ハ昔日ノ如ク一般人民ト交結ス
ルノ徒為ナルヲ惜リ只管ニ富有ナル民族ト和合シ以テ國益ヲ謀ランヲ望メリ
蓋シ富有ノ民ハ常ニ貸金利息ノ高キト勞夫及ヒ勞作品ノ低キトノ為ニ特ニ殷富ヲ致セシ
ナリ

看ヨ佛國ノ如キハ我ヨリ人員稍々過タルモ其封域ハ總カニ我合衆國ノ半ニ足ラ
サレハ國產ヲ兵サシカ為メニ資金ヲ要スルヲ自ラ希ナリ然ルニ民間ノ貨幣
頗ル饒多シテ其額數我國ニ半倍シタリ又英國ノ如キハ生齒ノ數佛國ヨリ一
層寡ナル而已ナラス貨幣ノ類モ内地ニ産スル者ナシ然レモ製造品ノ貿易他
ニ優レルヲ以テ内國之レカ為メニ殷富ヲ致シ當時大不列顛及ヒ愛蘭ト分頭
金ニ入ニ付ニ有餘「トルラル」ニ當ル

我カ大陸ノ人口總計四千万ニ足ラサレハ今此ノ人民ニ貨幣ヲ給ニテ各々充足
セシメンニハ凡リ其三倍ノ金額ヲ要ス然レモ之ヲ英佛人民ノ分頭金ノ割合ニ比ス

レハ遙ニ寡ナリ然シテ我カ内地ハ稠密ノ地ヲ觀ルニ其割合ニ許サノ金額ヲ
要セス是レ蓋シ我カ人民ノ貨幣ヲ運用スル英佛人民ヨリ優レル所ナルカ故ナラン
又新英ニ於テハ貨幣殊ニ夥タニシテ之ヲ其人口ニ配付スルハ一人ニ付キ三十有
餘「トルラル」ノ割合ナリ

我國西南地方ニ流通セル紙幣ノ額寡少ニシテ人民ノ事業之カ為メニ舉ラス國益
ヲ作真シ能ハサルヲ以テ觀ルハ正金換ヲ主張スル論者ガ往々紙幣ノ額ヲ咎メ
テ過多トナスハ信スベカラザルガ如シ假リニ斯ノ如キ論者カ主張スル所ノ論旨ニ
從フニ正金交換ニ恢復センヲ徒タ其交換期ヲ五十年延ツルヲ得ルノミニシ
テ到底其實ヲ踐ム克ハサル可シ

要スルニ融通ノ一器具タル紙幣ハ減少センヨリ寧ロ之ヲ増加スルニ如カス縱ヒ之
ヲ増スモ其價減少スルハ容易ニ之ヲ引上クルヲ得ヘシ「金銀ニ代ハル要品
ヲ作レ然ラハ金銀ノ期セスシテ自カラ來集セ」夫ノ新英、旧英、佛、白耳、義等ノ
都會ニ於テ諸方ヨリ金銀ノ輻湊スル者ハ他ナシ是レ其地融通金券ノ充滿セ

ルニ由ル而メ又「シヨルジャ」「アラバ」南北「カリフォルニア」等ノ僻地ニ於テハ金銀ノ流出スル者ハ他ナシ是レ其地融通金券ノ空乏ナルニ由レリ因テ又茲「コウタワ」及ヒ其地方ヨリ金銀ノ散出セシ所以ハ全ク尤ノ事情ニ管スルヲ速ニ聊カ其源由ヲ示スヘシ「コウタワ」ノ地ハ貸金業者者家モ僅少ナルニ金ヲ借ラントスル者許多ナレハ頗ル困状アリト今茲ニ該地ノ信書ヲ披抄シテ左ニ云々スル所アラシ該地ノ諸銀行ニ於テ常ニ貸付金ノ利息ハ大抵年一割ニ越スト雖モ往々融通ニ差支フル時ハ得意人ノ外敢テ貸金セサルヲ以テ金融立トコロニ塞リ尋常借人ノ如キハ已ムヲ得ス貸方ノ意ニ任セ三割或ハ四割ノ高利ヲ拂ヒ苟モ金ヲ借ルノ景況アリトス蓋シ奸商ノ心術タルヤ克ク法律ノ及ハサル所ニ其手段ヲ逞スレハ之ヲ抑制スルノ方アリ然リ而メ斯ノ弊害ヲ除カンニハ唯民間ノ通貨ヲ充足セシムニ在リ金融ノ道愈々自由ナレハ賤ク諸般ノ物品ヲ製造シ之ヲ低價ニ賣鬻スルヲ得ルニ至ルモノナリ試ニ英ノ景況ヲ視察セハ恐ラクハ其事實ヲ和ル所アラシ蓋シ該地ノ人民ハ貴金ヲ獲ルノ實カ即チ物品ヲ製出シ産業ヲ興起スルノカ増スカ故ニ其

貴金ニ交易スル物品ノ價ヲ減シタリ抑モ目今至要トスル所ノモノ他ナシ唯實カヲ増シ物價ヲ低減シ漸ハ金ニ溢價ヲ生セシメザルニ在リ何トナレハ金ニ溢價ヲ生スルハ尤人民ノ喋々訴フル所ナレバナリ但シ漸ヲ以テ溢價ヲ生セシメザランニハ先ツ當今殆ント地ニ墜チシ紙幣ノ信任ヲ恢復セザラズ此恢復ヲ謀ル者ハ稍々古来ノ事蹟ヲ徵セハ容易ニ其方法ヲ知ル所アラシ既往戦乱ノ世運ニ際シ五ヶ年ノ間ハ日々ニ國用三百萬「ドル」ヲ費セリ尔後妖氛漸々散シ再ヒ天日ヲ仰クヲ得ルニ至リ國用頓ニ減シテ僅カニ五十萬「ドル」ニ足ラズ而メ國政ヲ大ニ变革セシ以テ未ハ特ニ諸般ノ旧弊ヲ剪除シタリ就中曩ニ我國自由貿易法ヲ行ヒ英國人ト通商往來セシ頃ハ民間ノ取引上ハ總テ紙幣ノミニテ貴賤共ニ困難ヲ免レス又當時ハ陰密ニ官ヲ鬻キ或ハ破産スル等ノ陰謀頻トシテ僅々周年間ニ其幾回ナルヲ知ラス現今其幣風自ラ減シメタタ三四度ニ止ムルニ至リ顯フニ斯ノ如キ大变革ハ宇内ノ史乘ニ於テ未タ嘗テ見聞セサル所ナリ然リ而メ我國ニ於テ斯ノ变革アル者ナリ何リヤ曰我カ財務上ノ地底ハ外人ノ需求セサル物質ニ成レリ何カ外人ノ需求セサル物質ト云フ曰紙幣紙幣是也

○エルドリツキ曰ク 此說頗ル好シ余ハ貨幣ノ事ヲ論スルニ
ハ「ケーリー」氏ノ風慕フナリ

○リチャルトソン曰ク 諸君ヨ貴下等ハ今日ノ會談ニ於ケル
我輩カ論議ノ目的トスル所ノ本旨ヲ離ナル、フ已ニ遙カナル
ヲ回顧マサルヘカラス然リト雖我輩カ再ヒ本旨ニ復スルノ
前ニ於テ余ハ暫ク「グルー」氏ニ質問セシト欲スル一事アリ「ケ
ーリー」氏カ當國ニ於テ市場ヲ求ムル所ノ外國製造品ニ稅ヲ課
セントスル所ノ見込ハ何ノ点ニ在ルヤノフ即チ是レナリ何ト
ナハ今「ケーリー」氏カ朗讀セシ所ノ文中ニ「ケーリー」
氏ハ稅則ノ事ヲ以テ貨幣論中ニ添ヘ論シタレバナリ

○グルー曰ク 稅則ノ事ニ付キ余カ今言ハシト欲スル所ノ
「ハ蓋ク余カ曾テ貴下等ニ呈付セシ所ノ我カ「ユーロ」ク、メ
ルカンタイル、チユーールナル新聞紙ノ理財及ヒ貿易制按中ノ第

十條中ニ掲載セシ所ニシテ即チ左ノ如シ

第十條

凡ハ合衆國ノ人民タルモノハ合衆國政府ノ國用ニ供セシカ
為メ自ラ受クル所ノ保獲ノ多寡ニ随テ均一ニ租稅ヲ納ムル
ヲ以テ歲入ノ真ノ手段ト知ルベシ而メ其租稅中ノ最モナル
モノハ即チ左ノ如シ

販賣稅、酒類并ニ烟草稅及ヒ人情主義ニ基キテ正當ニ定メラレ

タル稅是ナリ

○リチャルトソン曰ク 足下カ「ユニオン」ニタリヤンプリンシフル

ハ主義ニ基キ正當ニ定メラレタル稅トハ如何ナル義リヤ明ク
ニ余ニ解説セヨ恐レ此ノ語曖昧不了ニ屬セン

○グルー曰ク 足下少シク克己ノ心ヲ以テ自ラ及カサル片
ハ則チ余カ讀ミ聞カセシ箇條ニ於テ毫モ曖昧不了ナル所ナキ

ヲヲ解スルナラント余ハ思惟セリ其文タル思考ヲ費ヤサレハ解シ難キ程簡明ナルニアラサルナリ然ルニ今日ハ早時間
己ニ迫リタレハ余ノ此上ニ税則ノ事ニ付論辨スルヲ辞セサル
ヘカラ余ハ今午後早貴下等ト論スルノ時間アラサレハ我
輩ノ主張スル所ノ貨幣説ヲ簡短ニ取り縮メテ再説セシヲ欲
スルノミ但シ此貨幣説ニ籍ルハ合衆國民タル我輩ノ為メニ
(何タル一二ノ拾段ナル金屬ニ頼ラスシテ)全國ノ富貴ヲ興起ス
ルノ源タル完全無缺ノ通用貨幣(紙幣ヲ指ス)ヲ供スベシト我輩
ハ自信スルナリ諸合衆國ノ製造及ヒ貿易ヲ問ハス其資本カ負
擔スル所ノ尤モ重大ナルハ數年未流行シ来レル利息ノ非常ナ
ル騰貴ニミテ殊ニ貧民社會ニ於テハ此高利ノ為メニ困弊ヲ極
ムルニ至レリ然ニ我輩カ主張スル所ノ全國ノ富貴ヲ興起ス
ルノ源タル不羈ノ通用紙幣ヲ其制按ニ基キ一旦實施スルハ

今日ノ如キ不法ナル非常ノ高利ヲ貪ラントスルモ到底能ハカ
ルニ至ルヘシ此ニ至リテヤ人若シ貸借ヲナサザル欲ハ常
ニ相當ノ利息ヲ以テスルヲ得ヘシ觀ヨ今日大英國ニ於テハ
貯蓄銀行及ヒ保信會社等ニ預ケ金ヲナス所ノ人ハ一分乃至一
分半ノ利息ヲ領收ス而シテ金ヲ借ラントスルハ其利息一分ヨ
リ一分半乃至二分ナリ若シ又高用上ノ貸借ニシテ四ヶ月乃至
六ヶ月期限ナレハ其利息三分ヨリ三分半ナリ然ルニ當府下ノ
現況ヲ視ヨ信用ヲ有スル所ノ為替手替等ヲ年一割五分乃至二
割ヲ引ヨ以テスルモ現金ニ交換スルノ甚タ艱澁ナルヲ當今
ノ如キ高利ヲ貪婪スルノ風連綿トシテ止マサルハ我合衆國
ノ製造者ハ決シテ一分半乃至三分ノ低利ニテ資本ヲ借入レ得
ル所ノ製造者(英ノ製造者ヲ指ス)ニ對シテ其業ヲ辭手スル
ノ時ハアラサルヘシ

余が今マ右ニ陳述セシ所ノ緊要ナル事實ニ付キ是下ノ殊ニ千
思万考ヲ費ヤサンヲ余ハ希望スルナリ

若シ「一」ル「ル」ノ貨幣ヲ有益事業ニ使用シ年々此利息ヲ元金
ニ加ヘ一百年ヲ積マハ九ノ數ヲ得ヘシ

元金 百年間ニ積ム所ノ元利

一弗 一分

全 三分

全 六分

全 八分

全 九分

全 一割

全 二分割

全 五分割

弗

二、四分

一九、四分

三四〇、二分

二、二〇三、

五、五四三、

一三、八〇九、

八四、六七五、

一、一七四、四〇五、

全

一八分割

一五、一四五、〇五七、

全

二四分割

二、五五二、七九九、四〇四、

此ニ六月十七日發兌ノ吾カ「メルカ」ン「タイ」ル、デ「ユール」ナ「ル」新聞
紙上ニ掲載セシ所ノ貨幣條款中ヨリ二三章ヲ摘採シ貴下等ニ
讀ミスルヲ適當トス此數章中ニハ當時當府下ニ流行スル所ノ
非常ニ騰貴セル金利ノ「フ」ニ付キ特殊ノ考按ヲ下シタリ其故サ
ラニ此ニ論及シテ之ヲ新聞紙上ニ掲載セシモノハ其故ナキニ
アラス若シ其論スル所果シテ適當ナラハ人々ヲシテ及顧スル
所アラシメンヤノ意ナリシ今マ勉メテ之ヲ簡明ナラシメンカ
為メニ今ハ先ツ六月十五日ノ發兌ノ「ニユー」ヨ「ーク」ハ「イー」ウ「エ」
ン「グ」ホ「スト」新聞紙ヨリ後萃シテ吾カ「デ」ユール「ナル」新聞紙上ニ
掲載セシ所ノ數ヨリ讀ミ始メシ
貨幣ノ需要ハ時々刻々ニ増加セラルカ故ニ銀行閉業期限ニ臨

ミテ金ヲ借ラントスルハ手数料トシテ一日ニ付、百分一ノ八分一ヲ拂、分ノ七(即チ七分)、高利ヲ納ムルヲ以テ通例トナリ之ヲ一ケ年ニ積ルハ殆ト五分割二分半、高利ニ當レリ

銀行營業時限後ニ於テ金ヲ借ラントスルハ前述ノ高利ヲ納ムルハ素ヨリ其上ニモ尚ホ手数料トシテ百分一ノ四分一ヲ拂ハサルベカラス而メ此宸後ノ手数料ヲ拂フテ金ヲ借ルモノ頻々之レアリシヲ我輩ハ聞及ベリ

今朝發兌ノユーヨー、リ、新聞紙上ニ於テ此ノ重要ノ事件ニ付論スル所尤ノ如シ

今朝ノ貨幣相庭ノ勢ハ稍々盛シナリシ而償借上ノ利息紙幣ハ七分ヨリ、金債ハ七分(按スルニ紙幣ノ利息ト金債ノ利息トラ比較スレハ紙幣ノ利息ハ常ニ幾分カ上ニ在ルモノ、ノ如シ)

マテニ昇レリ然レモ日脚ノ移リ時刻ノ減縮スルニ從ヒ其勢益々熾盛ヲ極メ七分ノ利息外ニ拂フ所ノ手数料百分一ノ十六分一ヨリ百分一ノ八分一ニ上リ加之遂ニハ僅カニ翌朝ニテ借入レノ約ニテ百分一ノ四分一サエモ容易ニ拂ハントスルモノアルニ至レリ斯ク不時ニ非常ナル相庭ヲ引起セシ所以ノ本源ハ何レノ憂ニカアル是レ唯大藏省ニ於テ陸續ト紙幣ヲ引揚クルカ為メナルノミ然リ而メ大藏卿カ買上ル所ノ五年ヨリ短ナラス二十年ヨリ長カラサル期限ノ公債証書ノ高ニ相平均シテ金ヲ賣下クルヲノ確實ナルヲ看認ムルニテハ此等ハ到底衰平ニ歸スヘキトハ想像セラレサルナリ大藏卿カ今日ニテ此種略紙幣引揚ヲ行ナフノ間時々利息ノ割合年九割八分トナル騰貴及フコアリ之レカ為メ大ニ我合衆國商賣上ノ利益ニ障礙ヲ起シ来リ斯ク償借上金利

ノ割合騰貴ニ至シカ為ノ割引債ハ大ニ衰ヘ其利息ノ割合ハ
唯名ノ存スルニナリシ

六月十五日タノ發見ノ「ゴムメルシヤルアドウエルタイスル」新
聞紙上ニ論スル所ハ尤ノ如シ

「ゴーケルンメント、コルラテラル」政府諸公「ストツクス」株ハ

諸地方ヨリノ需要盛シナルナノナレバ之ヲ抵當トシテ「ウオ

ールストリート」街銀市ノ存スニ於テ金ヲ借り入レントスルニ

ハ「ゴウルメント、コルラテラル」スノ方ハ年ニ百分ノ三十「スト

ツクス」ノ方ハ年ニ百分ノ五十二ノ割合ノ利息ヲ拂ハサルヘ

カラス

吾カ「デュールナル」新聞紙ニ於テハ余カ貴下等ニ讀ミ聞カセシ
所ノ後萃文ニ付テ左ノ論評ヲ下セリ

吾カ新聞紙看客ヨ吾カ公業記者カ開陳セシ如ク現ニ貸借上

ニ於テ拂ハル、所ノ非常ノ高利ヨリ左ノ驚愕スヘキ成果（我
輩之ヲ保證ス）ヲ引起シ来ルヘキヲニ注意シ且ツ又單利ト重

利（利倍ヲトハ其狀實ニ雙子ノ姉妹ニシテ決シテ他人ニアラ

サルヲ）記セヨ我輩カ斯ク注意ヲ望ム所以ハ能ク此理ヲ了

解スルモノハ僅々数人ニ過キサレバナリ諸我輩ハ左ノ論說

ノ基礎トシテ當府下豪商ノ富ヲ概計シ平均シテ暫ク一商ノ

富四千萬「ドルラル」ツ、トナスヘシ此四千万「ドルラル」ヲ貸付

ケ毫モ損亡ナシニ年々利息ヲ收入シ而シテ直ニ復モ之ヲ貸

付ケルカ如ク絶ヘス其運轉ヲ巧ミニ且ツ都合好クナスニ於

テハたゞ如キ結果ヲ得ヘシ

年一割ノ利息ニ、一百年間之ヲ運轉スル片ハ今日ノ四千万

「ドルラル」ハ一百ニ目ニ於テ其高五四六、一三二、〇〇〇、〇〇〇「ド

ルラル」ニ上ルヘシ之ヲ我合衆國ノ公債全額ニ比スレハ其多

キヲ二百五十五倍以上ニ至レリ

年一割ノ利息ニ以テスルハ終カニ五十七年ニシテ其高驚
クヘキ巨額即チ一三一〇、七二〇、〇〇〇、〇〇〇、トルラルニ上
ルヘシ而シテ此高タル金世界ノ人口ヲ拾億ト積リ一人(老若
男女ヲ問ハス)ニ付キ一十弗ツ、配當スルモ尚ホ餘リアレハ假
令ヒ其價現今ノ紙幣相庭ナルモ我輩ハ此拾億人ニ各々縮布
及ビ巾廣羅紗ノ衣服ヲ供シ又上等社會ノ人々ニハ家モ上等
ノ金時計ト金鎖トヲ給スルヲ得ベシ

年四割ノ利息ヲ以テスルハ五十年ニシテ其計實ニ八九八
〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、トルラル以上ノ巨額トナルヘシ
而シ此高タル全世界ノ人口拾億ニ各々一十弗ヲ配當シタル
上ニテ尚ホ餘剩アリ此餘剩ヲ全世界ニ存在スル動産不動産
ノ概算全價ニ比較スルニ尚ホ超過スルヲ數百倍ニシテ即チ

我カ合衆國公債ノ高ヨリ多キヲ三十五万九千二百倍餘ナリ

○ソイツウ井ツキ曰ク 余ハ其計算ヲ曾テ貴社ノ新聞紙上ニ
於テ一讀シ實ニ驚愕セリ然リト雖モ彼ノ一「トルラル」ヲ預ケテ
年々利倍ヲ以テ運轉スル一條ニ付テハ家モ注意考究スルニ足
ルモノアリ此ニ一分或ハ三分ト二割四分トノ間ニ甚タシキ差
異アリ請フ是等ノ割合ヨリ生スル所ノ高ヲ再ヒ足下ノ余ニ讀
ミ示サンヲヲ

○グルーム曰ク 一分ノ利息ニテ二弗七十二「セント」トナリ三
分ノ利息ニテ九弗二十五「セント」トナレリ然ルニ二割四分ノ利
息ナルハ其元金ニ全シク一弗其期限モ亦全シク一百年ナレ
バ二、五五、七九九、四〇四弗ノ巨額ニ上ルナリ

○リタヤルドソウ曰ク 足下計算ハ果シテ正シキヤ指示セラ
レタルカ如キ利息ノ割合ニテ斯ノ如ク夥シキ差異アルハ實ニ

余ヲシテ驚愕ニ堪ヘカラスム恐クハ足下計算中誤謬アルニ
アラスヤ

○ガールム曰ク 貴下等ノ見ル處ニ付テ自カラ反省熟思シテ
其誤謬ヲ發見セヨ余ハ余カ計算ヲナスニ臨ミテ頗ル注意ヲ
加ヘタリ我輩ハ我カチユールナル新聞紙上ニ一事ヲ掲載スル
ニモ實ニ小心謹慎シテ苟クモ誤謬ナカラシムヲ勉ムナリ

○ソーツウキ曰ク 今日ハ時刻已ニ迫マリタレハ今日ノ
議論ハ次會ニ譲ルヲ以テ然ルヘキカト余ハ思考セリ

○チャルトソン曰ク 今日ハ時刻已ニ晚ケレハ余ハ此議論
ヲ次會ニ付スルヲ拒ムノ道アルヲ見ス諸余ハ實ニ絶ヘテ金貨
ト關係ヲ有ヤサル通用紙幣ノ使用ニ関シテ前後ノ議論ヲ暫ク
中止センヲ希望ス余ハ素ヨリ足下ノ紙幣說ノ全角ヲ聽カン
ヲ要スレバ如何セン數週間此ノ會議ニ出席スルヲ得サル

事故アルガ故ニ余ハ丁度「ガールム」氏カ復タ譬喻ヲ蒸氣機關
ニ取テ明亮ニ解說セントスル所ノ貨幣制按ノ趣旨ヲ説明スル
ハ時ニ出席セシト欲スルナリ

○エルトリツキ曰ク 余モ亦タ蒸氣機關ノ運轉ニ譬喻シテ說
ク所ノ貨幣制按ノ說ヲ聽カンヲ要ス元来余カ今日此ノ會席
ニ列スル所以ハ特ニ此說ヲ聽カンヲ欲シテナリ然ルニ余ハ
恐ル次ノ土曜日午後吾カ製造所ニ出勤セサルヲハ余ノ為メニ
甚タ不都合ナラント

○ソーツウキ曰ク 余ハ將ニ諸君ニ請ハントス次會ヲ来
月第二土曜日ニテ延ベンヲ途ハ近々「ホストン」府ニテ旅行セ
サルヲ得サル商用アリ而シテ又タ此商用ヲ終ヘ引續キ「バルチ
モント」及ビ「ワシントン」府ニ旅行セサルヲ得不然シ何レニシテ
モ十二月初旬頃迄ニハ必ス「ニユーヨー」府下ニ歸来スヘシ

○グルーム曰ク 余ハ此ニ曆ヲ有ス十二月ノ第一土曜日ハ四日
ナルモ十一日ナハ天余ハ貴下等ハ撰ブニ委セン

○リーツウ井ツキ曰ク 余ハ寧口十二月十一日ノ集會ヲ約ス
ルヲ以テ余ノ為ニ都合好シトス然レ氏「リチャルドソン」氏ト
「エルドリツチ」氏トノ都合如何アラシキ乎

○リチャルドソン曰ク 「エルドリツチ」氏ニ於テ都合悪シキヲ
ナクシバ貴下（リーツウ井ツキヲ指ス）ノ意ニ應シ十二月十一日
テ次會ヲ延ヘンヲ然ルヘシト余ハ思考セリ「リーツウ井ツキ」氏
ヨ貴下ハ不日出発シ積リナルヤ余輩ハ屈指シテ貴下ノ歸來ヲ
待ツヘシ

○「リーツウ井ツキ」曰ク 然リ余ハ不日當府出發ノ積リナリ「グ
ルーム」氏ヨ余ハ「ニユーヨーク、メルカシタイル、グエ
ルナル」新聞紙看客ノ名簿ニ記入セラレシヲ希フ所ノ人ヨリ委托サレ

タル金額ヲ足下ニ拂ハンヲ要ス前日ノ事ヲ回想スレハ過ル
八月中余カ始メテ當社ニ来リシ時ノ舉動ハ今更實ニ汚顏ニ
堪ヘサルナリ然リ而シテ日ヲ経ルニ随ヒ過半ハ自カラ余カ通貨
論ニ付キ當時ノ所見誤謬ナリシヲ曉知ス而シテ自來愈々意ヲ
注クニ随ヒ益々其誤謬ナリシヲ知得シ今日ニ至リテハ全ク貴
社「グエールナル」新聞紙上ニ載スル所ノ論說ノ正理ニ違ハガル
ニ信服スルニ至レリ

○リチャルドソン曰ク 「リーツウ井ツキ」氏ヨ貴下ハ果シテ「グ
ルーム」氏ノ說ニ服セシヤ余ハ

○「リーツウ井ツキ」曰ク 今余カ口ヲ開クノ次ナレハ足下ハ
余ガ「ニ付キ」冗言ヲ費ヤスヲナク暫ク黙シテ余カ言ヲ聴ケ諸
「グルム」氏ヨ手短カニ足下ニ熱レバキヲアリ此ニ一百弗アリ之
レ余カ二十所ノ會社ヨリ委托セラレ貴社「グエールナル」新聞紙

ノ連送ヲ需ムル所ノ金圓ナリ余カ今回郷里ヲ發足スルニ際シ
僅カニ一二時ノ間隣人ヲ誘導シテ看客十六名ヲ得而メ又出
府ノ途中知已ニ邂逅シ更ニ四名ノ看客ヲ得タリ是ヲ以テ都合
二十名ノ看客ヲ得ルニ至レリ請フ夫々看客ノ許ニ請取証ヲ送
送アラシメテ然リ而メ今余カ家後ニ言ハント欲スル所ノコ
リ余ハ如ク始メ國內通用紙幣説ニ抵抗セシ所ノ論者黨ニシテ
終ニ「ヂエールナル」新聞紙ノ耐久守一ノ論辨ノ為ニ自説ノ迷誤
ヲ曉ルニ至リシ所ノモノハ望ムラクハ總テ余ガ轍ニ倣ハシ
テ

○グルーム曰ク「ワッツウ井ツキ」氏ヨ貴下ノ厚意實ニ感謝ニ堪ヘ
サルナリ加之ノミナラス余ハ貴下カ我カ貨幣説ノ意見ヲ容レ
之ニ全意セシメテ聞クニ及ビシハ特ニ大慶ノ至リナリ

○ワッツウ井ツキ曰ク我輩ハ再ヒ十二月十一日即チ土曜日三時ニ

於テ又此ニ集會スヘシ我輩ハ家早ヤ足下ニ暇ヲ告ケントス「ク
ートアフトルヌーン

○グルーム曰ク「グード、アフトルヌーン

○リチャルトリン曰ク「グード、アフトルヌーン

